

令和7年度

第68回 東京都小学校音楽教育研究会 研究大会

## 山の手Bゾーン大会要項・研究集録

都小音研 研究主題

つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを

山の手Bゾーン大会 大会主題

生き生きと音楽に関わり、  
学びを広げ 深め つなげる児童の育成

主催 東京都小学校音楽教育研究会

後援 東京都教育委員会

千代田区教育委員会

中央区教育委員会

港区教育委員会

新宿区教育委員会

台東区教育委員会

全日本音楽教育研究会

# 目 次

あいさつ	1
東京都小学校音楽教育研究会の研究について	6
令和7年度 山の手Bゾーン大会要項	8
山の手Bゾーンの研究概要	10
1 大会主題設定の理由	
2 研究の内容と方法	
3 研究構想図	
各地区の取組と学習指導案	14
千代田区	14
中央区	24
港区	34
新宿区	44
台東区	54
ワークショップ 内容紹介	64
研究の成果と今後の課題	66
令和7年度 山の手Bゾーン大会運営組織	67

# ごあいさつ

東京都小学校音楽教育研究会  
会長 山根 まどか  
(東三鷹学園三鷹市立北野小学校長)

本日はご多用の中、令和7年度 東京都小学校音楽教育研究会研究大会 第68回 研究大会 山の手Bゾーン大会にご参会いただき、誠にありがとうございます。本研究会は、ゾーン研究の他、理事会や各種研究会、調査研究、音楽作品発表会等、先生方の多様なニーズに応じて裾野の広い活動を行っています。ゾーン大会は、研究会が発足した昭和33年10月に第1回東京都小学校音楽教育研究会研究大会が行われ、昭和56年2月の第24回山の手Aゾーン研究大会からはゾーン大会として、諸先輩の先生方が音楽教育の発展のために尽力され、現在まで続いてきています。

昨年度の山の手Aゾーン大会では、アフターコロナの大会として、午前中に各地区の学校で実際の研究授業を参観して研究協議で深め、午後は一会場に集合し、研究全体会として研究発表及び講師による講評・講演をいただく形で開催しました。また、教員の働き方改革を踏まえて、研究の進め方や大会の開催方法、研究集録の内容の精選等、様々な場面について見直し、より効率的・効果的に研究を進め、成果を発表できるように工夫してくださいました。

現在、文部科学省では、次期学習指導要領の改訂に向けて検討が進んでいます。令和7年10月に開催された教育課程部会の芸術ワーキンググループでは、社会や経済の先行きが不確かな状況で、音楽等の芸術と関わることで、生活や社会がより豊かなものになり、短期的な幸福のみならず、幸福で充実した人生につながるとして、音楽を学ぶ意義を、より明確に示す必要があるとしています。

そのような状況において、本年度の山の手Bゾーン大会は、「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ深め つなげる児童の育成」を大会主題に掲げ、千代田区、中央区、港区、新宿区、台東区の先生方が2年間、研究に携わり、準備を重ねてきました。山の手Bゾーンの先生方は、一人一人の児童が喜々として音楽に向かい合い学び続けることで、「なりたい自分になるために、音楽をどのように生かすことができるだろうか」と思考し、対話を通して協働的に学びを深めていくための指導の在り方を追究してきました。これは、音楽科の学びが人生をより豊かにし、ウェルビーイングや自己実現につながっていくことを目指すものであり、キャリア教育とも関連付けられる大変有意義な提案であると思います。

本日は、これまでの研究の成果を公開授業及び研究協議、ワークショップや研究発表等で発表されますことに、心より敬意を表します。本日ご参会くださった方々が、研究大会で得た成果をもち帰り、子どもたちが喜々として音楽活動に取り組むことができるように、所属校や各地区における授業改善や研究等に役立てていただければ幸いです。

結びになりましたが、本大会の開催に当たり、ご講評・ご講演くださいます文部科学省 初等中等教育局視学官 志民 一成 様、様々な面でご支援・ご指導賜りました東京都教育委員会、千代田区教育委員会、中央区教育委員会、港区教育委員会、新宿区教育委員会、台東区教育委員会、全日本音楽教育研究会、また、貴重なご指導をくださいました講師や助言者の先生方に心よりお礼申し上げます。そして、ご理解、ご協力いただき、私どもを応援し支えてくださいました各地区の校長会並びに音楽担当の校長先生方、及び各学校の校長先生や教職員の皆様、準備と運営に携わってくださいました多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本日ご参会の皆様方の益々のご活躍と東京都の各地区の小学校音楽教育の発展を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

# 御挨拶

東京都教職員研修センター企画部企画課長

渡辺 浩一

この度、令和7年度東京都小学校音楽教育研究会第68回研究大会「山の手Bゾーン大会」が、開催されますことを心からお慶び申し上げます。

はじめに、これまで本研究会が小学校における音楽教育の充実・発展に多大なる貢献をされてきたことに深く敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。各学校では、これまでの成果を踏まえ、指導計画の作成や授業改善に日々取り組んでおられることと存じます。

令和7年3月に策定された東京都教育施策大綱では、「東京の目指す教育」を「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」と定め、東京の目指す教育を実現する「東京型教育モデル」をバージョンアップし、一人一人に最適な学びを実現するため、学びのあり方そのものを見直す「新たな教育のスタイル」を示しています。また、東京都教育委員会は、「DX」「制度」「教員・組織」の観点から学びのあり方を変えるため、令和7年度より、高等学校において「次世代の学びの基盤プロジェクト」を開始しました。デジタル技術を最大限活用し、人と人が関わり合うリアルな学びを充実させて自分の興味関心を、自分のペースで、多様な人々と関わりながら学ぶことができる「新しい学びの場」を目指します。

本研究会におかれましては、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育むために、これまでの研究成果を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を力強く推進していただいております。また、令和7年1月、「第67回 研究大会 山の手Aゾーン大会」においては、大会主題を「自ら求め 共に高まり 学びをつなげる児童の育成 ～音楽的な見方・考え方を働かせた音楽活動を通して～」と設定し、学習指導要領の目指す資質・能力の育成に向けた授業づくりにおける発表、研究を進めてこられたと伺っております。

本研究会が、研究主題を「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」と設定し、児童が主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わう姿を求め、研究を進めていることは誠に意義深く、また本大会の大会主題、「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」にもその方向性が表れており、本大会の成果が大いに期待されるところです。

本大会の開催は、全国から注目の東京都の音楽教育を発信する観点から、非常に価値のあるものです。本大会をきっかけとして、音楽教育の更なる活性化と充実につなげていただきますことを、心より期待しております。

結びに、本研究会のますますの御発展と皆様方の御健勝を祈念し、挨拶といたします。

## あいさつ

千代田区立千代田小学校副校長 高久 道子  
(千代田区教育会小学校音楽部会 部長)

千代田区教育会小学校音楽部では8校の音楽専科の教員を中心に活動しています。少人数ではありますが、山の手Bゾーン大会に向けて令和6年度から準備を進め、研究への高い意識をもって試行錯誤しながら取り組んでまいりました。古くから大切に継承されてきた伝統や歴史がある一方、先進的な社会が織りなす文化が融合する本区の特性を踏まえつつ、研究の視点に即した授業実践を重ねることで、地域との結びつきの大切さや授業づくりの面白さを感じるとともに、あらためて未来を生きる子どもたちの教育における音楽科の意義や大切さを実感してきたところです。

本大会の授業に向けご指導くださった講師の先生方はじめ実技研修会での講師や子どもたちへの授業をいただいた神田囃子保存会のみなさま、ご助言いただいた東京都小学校音楽教育研究会の皆様には感謝申し上げますとともに、今後ますますの発展を祈念して挨拶とさせていただきます。

## 子どもたちの心を豊かに

中央区立月島第二小学校長 伊藤 真吾  
(中央区教育会 小学校音楽研究部長)

令和7年度 東京都小学校音楽研究会 第68回 研究大会 山の手Bゾーン大会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

音楽は、子どもたちの心を豊かに育む上で欠かすことのできない教科です。メロディーやリズムに乗り、自らの感情を表現する楽しさ。仲間と声を合わせ、一つのハーモニーを創り上げる喜び。音楽の学びを通して、子どもたちは感性や表現力、協調性を育てています。各校の先生方が、日々、試行錯誤を重ねながら、子どもたちの心に寄り添った熱心な音楽指導を実践されていることに、改めて敬意を表する次第です。

結びに、本大会開催に向け、ご尽力くださいました全ての皆様には心より感謝するとともに、東京都小学校音楽研究会のさらなる発展を祈念いたします。

## ハンガリーの夕べ

港区立芝浜小学校長 宮崎 直人  
(港区小学校教育研究会 音楽部長)

港区小学校教育研究会音楽部会では、港区立小学校19校で、令和6年度より、山の手Bゾーン大会の研究主題である「生き生きと音楽に関わり、広げ 深め 学びをつなげる児童の育成」を本部会の研究主題として研究を推進してきました。港区には大使館が多いという特色を生かして、ハンガリー大使館と連携し、研究を進めてまいりました。港区の音楽部員全員がハンガリーについて学び、ハンガリーの音楽や踊りに浸りながら研究を進めてまいりました。大会では、音楽づくり「世界の音楽でつながろう～ハンガリーの踊りの音楽～」をテーマに研究授業を行います。ご指導ご鞭撻をよろしく願いいたします。研究を進めるに当たり、ご指導をいただきました、筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生、東京都小学校音楽教育研究会の先生方、ハンガリー大使館の皆様には心より感謝を申し上げます。

## あいさつ

新宿区立西新宿小学校長 長井 満 敏

(新宿区立小学校教育研究会 音楽研究部顧問校長)

本日はお忙しい中、東京都小学校音楽教育研究大会山の手Bゾーン大会にご参会賜り、誠にありがとうございます。音楽は、子どもたちの心を育て、豊かな感性や表現力を養う大切な学びの場です。小学校音楽科では、歌唱や器楽、鑑賞などを通じて、楽しさや美しさを感じ取る力を育てるとともに、仲間と共に創り上げる喜びを学んでいきます。本研究大会では、「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」の研究主題のもと、授業実践や指導法について、互いに学び合いながら、より良い音楽の授業の在り方について研究を深めてまいりました。子どもたちの「わかった」「できた」「たのしい」が日々の授業にあふれるよう、教員自身も学び続ける姿勢が大切になります。本日の研究発表が、実り多い機会となりますことを願い、ご挨拶とさせていただきます。

## 昔ながらの心意気につつまれて 音楽を楽しむ子どもたちとともに

台東区立東泉小学校長 片寄 玲子

(台東区教育研究会 音楽部顧問校長)

大河ドラマ「べらぼう」に沸く、上野、浅草、谷中、隅田川など歴史と伝統と文化に恵まれた台東区は、かげがえのない財産を活かしてまち全体を「学びのキャンパス」と捉え、信頼と支え合いの中で将来を担うひとづくりを推進しています。19の小学校には、オーケストラ、吹奏楽や金管バンド、マーチングバンド、合唱団があり、子どもたちは、まるで息をするように毎日音楽に触れています。私たちは、山の手Bゾーン大会の機会をいただき、地域の環境を生かしつつも、どんな地域の学校でも参考にして明日からでも実践することができる内容を全員で知恵を絞り合って考え出し、喜々として音楽と戯れる子どもたちの姿を通して研究の成果を発表します。参考になりましたら幸いです。

有意義な学びの機会をいただきました東京都小学校音楽教育研究会 山根 まどか 会長をはじめとする研究会の皆様、講師をお引き受けいただきました横浜市立太尾小学校長 館 雅之 先生に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

## ごあいさつ ～ 子どもも教師も幸せに ～

東京都小学校音楽教育研究会 副会長

大会実行委員長 岡 千恵

(新宿区立江戸川小学校長)

この度は、東京都小学校音楽教育研究会山の手Bゾーン大会にご参会いただき、誠にありがとうございます。本研究の準備会発足は令和5年6月、第1回研究推進委員会は令和5年10月にスタートしました。千代田、中央、港、新宿、台東、5地区の英知を結集しながら、2年以上の研究を重ね今日に至ります。その間、多くの方々のご支援を賜りながら、研究を推進できたことに心より感謝いたします。

山の手Bゾーン大会に向けての研究では、何度も「個別最適な学び」が実現できるのかということの議論を交わしました。どのように促せば、一人一人のよさや可能性を発揮できるのか、どのような方法で、個別最適に音楽の資質・能力を身に付けさせることができるのか、どのように工夫したら、幸せな状態を実感できる授業となるのか、真剣に議論しました。議論するだけでなく、各地区での実践そのものを大切に、研究推進委員会で共有し、また、各地区で実践し、改善することの繰り返しを行うことに意義を見出し、その成果を発表させていただくこととなりました。まさに、本大会に関わった多くの先生方が幸せ感を持ちながら推進してまいりました。しかし、迷いながら、行き詰り、助言者の先生方に相談し、そのご支援とご示唆に救われることも数限りなくありました。各授業の助言者の皆様のこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

研究を進めるに当たって、これまでの大会の流れを生かすことで、事務的な労力も最小限にし、本来あるべき、子どもたちに向き合う授業をどう構成するかを中心に研究してまいりました。そのために、研究会の持ち方そのものにも、工夫を加えました。夏の研究交流会では、ワールドカフェ方式を試行し、全員が意見を出し合いやすい、画期的な方法でアプローチし、授業そのものについて深く議論することもでき、率直な意見が授業改善につながりました。研究交流で他区からの情報を取り入れることで、所属地区の研究を活性化することに直結しました。結果として、ゾーン研究のよさを実感するところまで到達することができたこと、充実感や喜び合うことができたことは貴重な研究の成果の一つです。共通のゴールは、全ての子どもも教師も幸せな状態に近付けることでした。音楽に関わる幸せを実感することで、将来に向けての楽しみや、展望、ワクワク感が持続します。子どもたちがもっともっと音楽と関わりたい、そのような気持ちを育てることが音楽科の教師としてとても重要なことと捉え研究に打ち込んできました。

研究に終わりはなく、まだまだ続きます。個々の子どもたちの実態に合わせた、さらに新しいアプローチを考え出すことも必要かもしれません。教員相互も協働的に考えることが楽しくなる、このようなエネルギーを醸し出す、次につながるゾーン研究の取組となることを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました東京都教育委員会、山の手Bゾーン5地区の教育委員会及び各地区の校長会並びに音楽科担当の校長先生方、及び各学校の校長先生、教職員の皆様、準備と運営に携わっていただきました全ての関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。ご参加いただきました皆様方のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

# 研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」

東京都小学校音楽教育研究会 研究部長 半野田 恵

## 1 研究主題について

東京都小学校音楽教育研究会では、音楽とのつながり、人とのつながりの中で、児童が音楽的に深まり、音楽を聴いたり表現したりする喜びをもち、人間として豊かに育つことを目指してきた。これまでの研究の成果と学習指導要領が示す内容を踏まえ、音楽的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いや意図を表現するために必要な知識及び技能を習得し活用する学習、聴き取り感じ取ったことを友達や教職員、地域の方や専門家等と交流しながら学びを深める学習を、一層充実させていく。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことにより、児童が生活や社会との関わりの中で音や音楽が果たす役割に気づき、音楽の授業で学んだことを生活に生かそうとする姿を目指す研究を進めていく。

児童が自ら「自分と音楽とのつながりを深めよう」「音楽で様々な人とつながろう」「音楽の学びを生活に生かそう」と主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わってほしいとの願いをこめ、研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」を設定した。





令和7年度 東京都小学校音楽教育研究会 第68回 研究大会 山の手Bゾーン大会要項

山の手Bゾーン大会主題

「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」

1 時程

9:00	9:30	10:15	10:30	11:30		
受付	研究授業	休憩 換気	研究協議会	昼食・移動		
13:00	13:30	14:35	14:50	15:20	16:10	16:15
受付	ワークショップ	開会 行事	研究発表	講評・講演	閉会	

2 会場と受付

【午前の部】 各区小学校 5会場で実施

【午後の部】 全体会 千代田区立お茶の水小学校

- 会場1 千代田区立お茶の水小学校
- 会場2 中央区立京橋築地小学校
- 会場3 港区立青山小学校
- 会場4 新宿区立江戸川小学校
- 会場5 台東区立根岸小学校

受付 9:00~9:30 午前の部 9:30~11:30 研究授業 研究協議				
会場1	会場2	会場3	会場4	会場5
千代田区立 お茶の水小学校 第4学年 音楽づくり	中央区立 京橋築地小学校 第6学年 歌唱	港区立 青山小学校 第5学年 音楽づくり	新宿区立 江戸川小学校 第4学年 器楽	台東区立 根岸小学校 第4学年 鑑賞
会場1 全体会	受付 13:00~13:30 午後の部 13:30~16:15			
千代田区立 お茶の水小学校	ワークショップ 開会行事 研究発表 講評・講演			

### 3 内容

#### ■研究授業・研究協議

学校名 学年	「題材名」 授業内容	授業者	助言者
<b>会場 1</b> 千代田区立 お茶の水小学校 第4学年	<b>音楽づくり「お茶小ばやしをつくろう」</b> 地域に伝わる『神田囃子』の魅力や、それを受け継ぐ人々の思いを知り、生の演奏に触れた経験を大切にしながら、つくった旋律をつなげて『お茶小ばやし』をつくる。	向 祐佳 主任教諭	国立音楽大学 教授 津田 正之 先生
<b>会場 2</b> 中央区立 京橋築地小学校 第6学年	<b>歌唱「わたしたちの『このみち』を表現しよう」</b> 金子みすゞ詩『このみち』を教材とし、曲想と音色、強弱、音楽の縦と横との関係や歌詞の内容との関わりについて理解したり、思いや意図をもって、曲の特徴にふさわしい表現を工夫したりする。	上出 奈央 主任教諭	日野市立平山小学校 指導教諭 後藤 朋子 先生
<b>会場 3</b> 港区立 青山小学校 第5学年	<b>音楽づくり「世界の音楽でつながろう ～ハンガリーの踊りの音楽～」</b> ハンガリー民謡を聴いたり歌ったりして気付いたリズム、速度、反復などの特徴を生かし、まとまりのある旋律をつくる。さらにハンガリーの踊りの音楽を鑑賞して、曲や演奏のよさを味わう。	佐々木 望美 主任教諭	筑波大学附属小学校 教諭 平野 次郎 先生
<b>会場 4</b> 新宿区立 江戸川小学校 第4学年	<b>器楽「日本の音楽に親しもう」</b> 『ソーラン節』の鑑賞と器楽を関連付けた題材。様々な日本の楽器を使い、拍と息を合わせる合奏に取り組む。本題材から次年度参加する地域のお祭りへ思いをつなげ、日本の音楽に親しむ。	白鳥 あみ 教諭	武蔵野大学 非常勤講師 中島 寿 先生
<b>会場 5</b> 台東区立 根岸小学校 第4学年	<b>鑑賞「思いを音楽で表そう」</b> 『山の魔王の宮殿にて』を教材とし、作曲者がどのように情景や心情を音楽で表現しようとしているのかを考えながら、曲想を生み出している音楽の構造に気付き、曲全体を味わって聴く。	金森 智美 主任教諭	横浜市立太尾小学校 校長 館 雅之 先生

#### ■ワークショップ

テーマ 「心おどる、心ふるえる歌唱の授業」

講師 桐蔭学園小学校 主幹教諭 岩井 智宏 先生

協力 千代田区立お茶の水小学校 第4学年児童

#### ■研究発表

発表 山の手Bゾーン(千代田区・中央区・港区・新宿区・台東区)

#### ■講評・講演

演題 「音楽科における『学びに向かう力、人間性等の涵養』を再考する

～教育課程企画特別部会の議論を踏まえて～

講師 文部科学省 初等中等教育局視学官 志民 一成 先生

#### ■閉会

## 山の手Bゾーン大会主題

# 『生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成』

山の手Bゾーン研究部長 清水 達也

## 1 大会主題設定の理由

令和3年1月中央教育審議会は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）で2020年代を通して実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことを掲げた。また、令和5年6月には、「次期教育振興基本計画」で、計画のコンセプトとして「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が挙げられた。日本社会に根ざしたウェルビーイングの要素として「幸福感」や「学校や地域でのつながり」「協働性」などが挙げられ、これらについて教育を通じて向上させていくことが重要であると述べられている。

山の手Bゾーンでは、各区の児童の実態やこれまでの研究の内容や課題について交流を行い、目指す児童像や本研究で取り組みたいこと、本研究のキーワードとなりそうなことについて話し合いを重ねた。各区からは「主体的」「喜び」という言葉が数多く挙げられていることから、児童の心が音楽に向かっている状態を以下のように考えた。

- ・音楽の学習に前向きに取り組んでいる。
- ・音楽活動をする喜びを体全体で表現している。
- ・自分なりの「こうしたい」「こう表現したい」という思いや意図をもっている。
- ・学習課題を自分のこととして、音楽の学習に取り組んでいる。
- ・音楽の授業で学習したことを生活と結び付けたり、授業外の活動に生かしたりしている。

音楽科は情動が深く関わる教科である。音楽活動を通して心が動くことで、音楽に対する興味・関心が高まり、学びが深まっていく。児童の心が音楽に向かい、喜びに満ちている姿を実現したいという思いから、山の手Bゾーンでは研究のキーワードを「喜々として」とした。児童が喜々として音楽と向かいながら学び続けることで、「なりたい自分になるために、音楽をどのように生かすことができるだろうか」と思考し、ウェルビーイングを実現していくことにもつながっていくと考えた。

以上のような児童の姿の実現を目指し、大会主題を「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」とした。「生き生きと音楽に関わり」には主体的に学ぶ姿、「学びを広げ 深め つなげる」には対話的に学ぶ姿、深い学びに向かう姿への思いを込めた。そして、その具体的な姿として、目指す児童像を以下のように設定した。

### 目指す児童像

- ・音楽活動の楽しさを見いだしながら、自ら学びに向かう子
- ・他者や音楽との対話を通して、自分の考え方や感じ方を広げたり深めたりする子
- ・音楽の学びをこれからの学びや生活につなげて生かそうとする子

## 2 研究の内容

生き生きと音楽に関わり、学びを広げ、深め、さらに音楽の学びをこれからの学びや生活につなげて生かすことを考えることのできる児童の育成に向け、以下の3つの視点を設定し、授業改善を図ることとした。

## **視点1** 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

児童が音楽や教材と主体的に関われるような出会いを工夫し、学びの対象への興味・関心を高めていくことは、学びの原動力となる意欲を引き出し、それを継続して高めていくうえで大切である。

こうした中で、次期改訂に向けた教育課程企画特別部会で示された「初発の思考や行動を起こす力」や「好奇心」といった視点も意識しながら、児童の中に自然な問いや探究心が芽生えるような教材との出会いや導入を工夫していく。

また、学習のゴールイメージをもって活動に取り組むことや、課題解決の方法を自ら考え行うこと、さらに学習を振り返る時間を適切に設けることによって、児童が学びの意味や価値を自覚し、「もっと学びたい」という意欲につなげていく。

### **○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫**

児童が音楽のよさや面白さを感じ取りながら、学習内容のつながりを捉え、自ら見通しをもって主体的に取り組めるように、学びをつなげる題材構成や課題・教材との出会い方、ワークシートなどの工夫を行っていく。例えば、音楽を形づくっている要素に着目して考えを深め、自分の表現とつなげていけるような学習の流れを工夫したり、体験や映像との出会いをきっかけに音楽への関心や期待感を高めたりすることで、児童が音楽の意味や魅力を自分なりに考え、学びを自分のこととして捉えられるようにしていく。

こうした学習過程を通して、児童が学びの全体像を捉え、これまでの学びとこれからの学びをつなげながら、自らの成長を実感し、意欲的に学び続けようとする姿を育てていく。

### **○個別最適な学びを実現する工夫**

児童の興味や特性、学習の進度に応じて、自分に合った方法で取り組めるようにすることは、音楽科における個別最適な学びの実現において重要である。児童が主体的に音楽に関わり、自らの表現に向かって進んでいくことができるよう、教材や活動、環境を工夫していくことが求められる。

例えば、音やリズム、楽器、学習の進め方などに選択の幅をもたせることで、児童が自分に合った方法で音楽づくりや表現に向かえるようにする。また、段階的な課題提示や個別の支援を工夫し、どの児童も「できそう」「やってみたい」という意欲をもって課題に向かえるようにする。

その際、学習の見通しや振り返りの時間を通して、自分に合った学び方や進め方を見いだしたり、工夫や改善点に気付いたりしながら、学習の方法やペースを自ら調整していけるようにする。児童が自ら考え試そうとする姿を尊重しつつ、必要に応じて適切に関わることで、学習の調整力や粘り強さを育てていく。また、試行錯誤の過程を支えるデジタルワークシートや、意見を共有できる振り返りシートなど、ICTを活用することも有効である。

こうした学習環境の工夫と教師の関わりによって、児童が学びの深まりを実感し、主体的に音楽に関われるようにしていく。

## **視点2** 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

児童同士の対話、教職員や地域の方との対話、演奏家など専門家との交流、作詞者や作曲者など先哲の考えを手掛かりにして考える活動を通して、自分では気付かなかった音楽のよさに気付いたり、思いを伝え合ったりする。このような対話を通して共有した学びを音楽表現につなげることのできる学習場面を設定する。また、児童の思いや意図を引き出したり、思考の広がりや深まりを促したりする教師の働きかけを工夫する。

### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

児童が安心して意見を交わし、音楽を多面的に捉えられるように、学習環境や学習形態を工夫し、対話が自然に生まれるようにしていく。

気付いたことや感じたことを言葉で共有したり、音を通して表現し合ったりする中で、共感し合ったり、協働する楽しさを味わったりしながら、自分とは異なる見方や感じ方に出会い、音楽の捉え方に広がりや深まりをもてるようにする。また、必要に応じてICTや思考ツールを取り入れ、考えを可視化したり、学びの視点を整理したりすることで、対話をより豊かなものにしていく。

こうした対話的な学習活動の積み重ねを通して、児童が音楽のもつ意味や価値に気付き、自分なりの思いをもって音楽に関わる姿へとつなげていく。

### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

児童の思いや意図を丁寧に受け止めながら、考えや表現が広がっていくような関わりを重ねていく。学習のねらいを明確にし、「どうしてそう思ったの?」「どんなふうに演奏したい?」など、児童の思考や表現を引き出す発問や言葉掛けを工夫することで、学びへの関心や気付きを生み出していく。

また、児童の言葉や反応に耳を傾け、対話を通して気付きや疑問を次の学びへとつなげていく。児童の考えや表現を価値付けしながら、認め合い、学び合う関係を築いていけるように支援していく。さらに、個人やグループなど学習形態や学習課題に応じて、支援の仕方や関わり方を工夫することで、児童が学びを自分のこととして捉え、理解や表現を深めていけるようにする。

全員が安心して活動に参加できるよう、座席の配置など学習環境や活動の流れにも配慮し、友達と関わりながら思いや考えを広げたり深めたりできるようにしていく。

### **視点3** 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

児童が学習の中で「できた」「分かった」という実感を持ちながら学びを積み重ね、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」と意欲的に学びをつなげていけるように、題材間や領域・分野間の関連を意識した年間指導計画を作成する。その際、視点3に関連する事項を年間指導計画に位置付け、学びの連続性や発展性を意識した取組を進めていく。また、地域の伝統文化や学校行事、国語科や社会科、総合的な学習の時間など他教科等と関連させた学習を展開し、各地区の特性に合わせた取組を工夫することで、音楽科の学びが自分の生活や社会とつながっていることを実感できる深い学びを実現していく。

## 3 研究の方法

### (1) 授業研究及び協議会

- ・各区の授業研究と協議会、事前研究会の実施と研究内容の共有
- ・大会授業の学習指導案の作成
- ・音楽科と他教科等との関連を記載した年間指導計画の作成

### (2) 研究発表

- ・ゾーンの研究のまとめと各区の取組による発表

東京都小学校音楽教育研究会 研究主題  
「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」

山の手Bゾーン大会主題  
「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」

### 目指す児童像

- 音楽活動の楽しさを見出しながら、自ら学びに向かう子
- 他者や音楽との対話を通して、自分の考え方や感じ方を広げたり深めたりする子
- 音楽の学びをこれからの学びや生活につなげて生かそうとする子

### 研究内容

#### 視点1

音楽的な見方・考え方を  
働かせた主体的な学びの実現

- 見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫
- 個別最適な学びを実現する工夫

#### 視点2

対話を通して広げ深める  
協働的な学びの実現

- 考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動
- 音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

#### 視点3

学んだことを生かしつなげる  
深い学びの実現

- ・学びの連続性・発展性を意識した年間指導計画の作成
- ・音楽科の学びと生活や社会とのつながりを意識できる学習の充実、各区の特性に合わせた取組

### 研究方法

研究授業及び協議会 : 学習指導案の作成、大会授業の事前研究会、研究内容の共有

研究集録の作成 : 研究内容、各区の取組、学習指導案、成果と課題

研究発表 : 研究内容と各区の取組について

音楽科と他教科等との関連を記載した年間指導計画の作成 : 各区の特性に合わせた取組

# 千代田区の取組

授業チーフ 九段小学校 佐伯 麻子  
千代田区研究部長 千代田小学校 井上 奈々



## 1 千代田区の取組の概要

千代田区では、山の手Bゾーン大会主題や各校の実践を踏まえ、音楽の学びが「自分の生活や社会とつながっている」と実感できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業研究を進めている。区内には神田明神があり、神田祭をはじめ様々な年中行事で「神田囃子」が演奏されている。授業校では、全校での鑑賞や総合的な学習の時間における祭囃子体験が行われていることを踏まえ、創造的な表現活動を通して神田囃子の特徴や魅力を深く感じ取ってほしいと考えた。本区では、神田囃子を基にした音楽づくりに取り組み、研究授業や神田囃子保存会を招聘した実技研修を実施してきた。この学習が、地域の祭りに参加する、お囃子を聴く、演奏する、演奏団体に入るなど、生活の中の音楽や他者と主体的に関わり、郷土の文化を受け継ぐ姿につながることを願っている。

## 2 研究の視点について

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

神田祭で神輿を担いだ経験を想起し、自分たちがつくったお囃子を立志式で発表することを目標に、保存会の演奏やお話を聴く場を設け、児童が見通しをもって主体的に学び続けられるようにする。また、常時活動としてリコーダーリレーに取り組み、旋律の音の動きの特徴や反復が生み出すフレーズのよさや面白さに気付くことができるようにする。学習進度に応じて個人や友達と演奏できる環境や、一人一台端末上で直感的に操作できるカードを活用しながら、どの児童も無理なく学習を進められるようにし、個別最適な学びを実現できるようにする。

### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

神田囃子保存会との交流を通して、伝統を受け継ぐ人の思いや地域の音楽と生活との関わりについて理解を深め、生演奏や対話から音楽づくりの手掛かりを得られるようにする。思考ツールを活用して聴き取ったことと感じたことを整理したり、互いのよさや面白さを共有し聴き合いながら旋律をつくったりする。教師は、協働学習支援ツールを活用した振り返りを行い、観点を示して全体で共有し、適切にフィードバックする。また、毎時間のねらいを明確にし、児童の反応を踏まえた発問を工夫する。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

地域の人材と連携し、協働して学校内外の音楽活動を深める工夫を行う。総合的な学習の時間で得た神田明神についての知識や神田祭での経験を基に、地域の伝統芸能についての学びを系統的につなげる。また、幅広い視点から他教科と関連付けたカリキュラムマネジメントを推進する。地域の人・もの・ことについての学習に取り組み、互いのよさを生かせる生き方を考えるとともに、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育てる。

## 3 事前授業を通して

神田囃子保存会の生演奏を聴いて、保存会の皆様が「粋」であることに美学をもち、誇りをもって演奏される姿に触れ、憧れをもつことができた。昨年度は即興的に音を選びつなぐ音楽づくり(ア)に取り組んだが、旋律の構成や評価に課題があった。検討を重ね、神田囃子が旋律を繰り返しながら音の動き方や連なり方を変化させていることを参考にして、音を音楽へと構成する音楽づくり(イ)に変更した。事前授業では個別最適な環境づくり、保存会や友達との対話により、児童が人や音楽と豊かに関わり生き生きと学ぶ姿が見られた。今後も更なる学びの深まりを目指し、生活の中の音楽や他教科とのつながりを踏まえ、ウェルビーイングの実現に資する授業づくりやカリキュラム研究を続けていく。

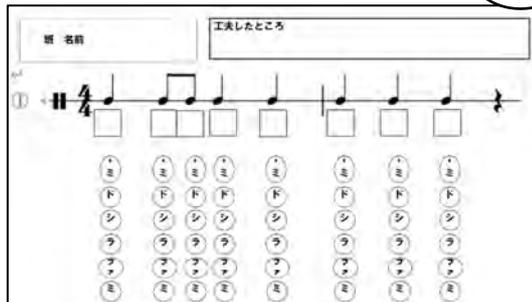
#### 4 大会授業の取組の実際

##### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現



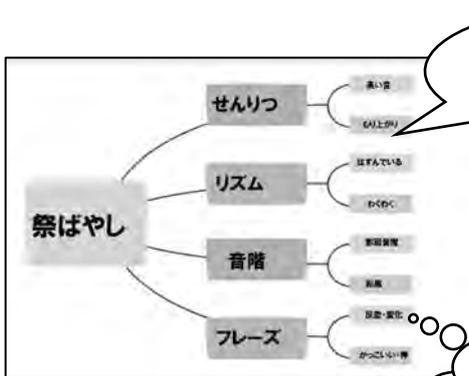
同じ音でリズムを変えてつないでみましょうか

間に休符を入れてもいいですか？



- ・常時活動でリコーダーリレーに取り組み、音の動きの特徴や、フレーズの反復・変化の面白さに気付くことができるようにした。
- ・どの児童も旋律をつくることができるよう、一人一台端末上で音を線であらわして記録するカードを用いた。グループで反復・変化の仕組みを工夫してつなげる際は、カードをコピーしたり並べ替えたりして、何度も試行錯誤できるようにした。

##### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現



どんな感じ？なぜそう思った？

わくわくする感じ。リズムがはずんでるから！

- ・神田囃子保存会との交流によって伝統を受け継ぐ人の思いを感じ取るとともに、篠笛の音の動きの特徴や、神輿の動きに合わせて基本のフレーズを繰り返しながら変化させているなど、音楽づくりの手掛かりを得ることができるようにした。
- ・協働学習支援ツールを活用し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりや振り返りを全体で共有して、音楽表現や考えを広げ深めることができるようにした。

##### 視点3 学んだことを生かしてつなげる深い学びの実現



今年の神田祭りを思い出そう！

子ども神輿を担いだよ。

総合的な学習の時間や社会科と関わらせて、地域や伝統文化についての学びと音楽科の学びを結びつけるカリキュラムマネジメントを行うことで、地域の音楽文化により親しみを持ち、継承、発展、創造していこうとする態度を育むようにした。

## ◆第4学年 学習指導案◆ 「お茶小ばやしをつくろう」

教材 神田囃子より『投げ合い』

千代田区立お茶の水小学校

「お茶小ばやし」(神田囃子から発想を得た音楽づくり)

指導者 向 祐佳 主任教諭

### 1 題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方などの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 旋律、音階、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 祭り囃子の音楽の特徴や旋律をつくる学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組み、地域の祭り囃子に親しむ。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態

4月に学習した「音楽で心の輪を広げよう」では『さくら さくら』を教材とし、「和風な感じがする」と感じ取ったことを手掛かりにして、ミファラシドの都節音階と曲想との関わりに気付くことができた。常時的な活動では、旋律を即興的につないでいく「リコーダーリレー」などで即興的な表現に親しむとともに、リズムの変化を楽しんだり音の動き方を工夫したりする活動に取り組んでいる。

本題材では、お囃子の旋律をつくった経験を契機として、地域の音楽や伝統文化に関心をもち、主体的に関わろうとする児童を育てるとともに、今後の自分と自分を取り巻く環境が持続的によい状態であること(well-being)を実現していく力を育てたい。

##### ②題材の意義

「生き生きと音楽に関わり」では、幼少時より神田祭に参加し、神田囃子に合わせて神輿を担いだ経験があることから、学年末の立志式(高学年の仲間入りの式)を「はやし立てる」場と捉え、「お茶小ばやしをつくろう」という題材を設定した。神田囃子保存会の演奏を生で聴いたり交流したりすることで、伝統を継承する保存会の思いや、祭り囃子の特徴であるリズム、旋律、音階、反復などの特徴が神田囃子の氣勢や躍動感を生み出していることに気付くようにする。その学びを生かして音やフレーズをつなぎながら主体的・協働的にオリジナルの祭り囃子をつくっていく。

「学びを広げ、深め」では、自分たちの「お茶小ばやし」をつくるために、互いに気付いたことや感じ取ったことなどについて言葉と音楽で伝え合い、お囃子のよさやつくった旋律のつなげ方の工夫について共有しながら取り組めるようにする。

「つなげる」では、地元の音楽である神田囃子の生演奏を聴いたり、保存会と交流したりすることを通して、地域に伝わる音楽を継承していく人々の思いや歴史などを知り、さらに神田囃子に愛着をもてるようにする。また、総合的な学習の時間「SDGs わたしたちができること」や、社会科「きょう土のはってんにつくす 残したいもの伝えたいもの」の学習と関わらせることで、人々の生活や社会と音楽との関わりについて考え、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度を育てるようにする。

## (2) 学習指導要領との関連

【A表現】(3) 音楽づくり ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 旋律、音階、フレーズ

イ 反復、変化

### 3 教材について

#### ●令和7年度神田祭 演奏動画 神田囃子『投げ合い』

本校児童も参加した、今年度の神田祭での『投げ合い』の演奏音源を視聴して、『投げ合い』が締太鼓2、長胴太鼓1、篠笛1、摺鉦1の編成で演奏されていることや、旋律を演奏しているのは篠笛であること、それぞれの楽器の音色や旋律、音階、フレーズ、反復などの特徴に気付くようにしたい。また、弾むようなリズムやフレーズの反復などの特徴から、神田囃子特有の曲想を感じ取り、自分たちの地域に伝わる音楽に興味・関心をもって本題材の学習に取り組むことができるようにする。

#### ●令和7年度録音 神田囃子保存会による神田囃子『投げ合い』篠笛の演奏CD

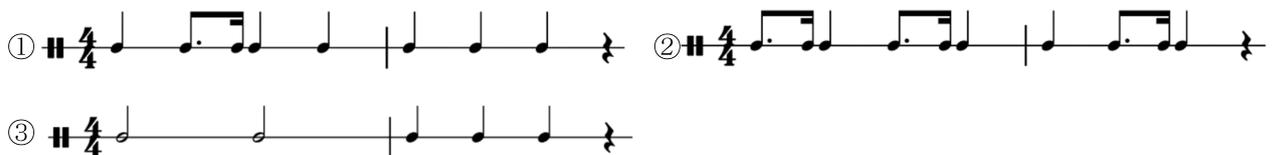
神田囃子『投げ合い』の篠笛のみの音源である。弾んでいるようなリズムや高い音域で奏でられる旋律の特徴、隣り合った音や同じ音に進むことが多い音の動き、フレーズの反復などに気付き、お囃子の旋律をつくる活動の手掛かりを得て、どのように旋律をつくったりつなげたりするかについて思いや意図をもち、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。

#### ●「お茶小ばやしをつくろう」(神田囃子から発想を得た音楽づくり)

本題材では、神田囃子『投げ合い』を聴いて、気付いたり感じ取ったりしたリズムや旋律などの特徴を生かしながら、一人で4拍×2小節の旋律をつくる。そして、その2小節の旋律を班で工夫しながらつなげたり、残り2小節を考えたりして8小節の旋律をつくる。

#### 〈旋律づくりの手順とルール〉

- ・使用する音は、ミファラシド(ミ) 都節音階
- ・3つのリズムフレーズから一つを選び、音をあてはめて、個人で4分の4拍子 2小節(8拍)の旋律をつくる。



※第1時で児童から「弾むようなリズム」という特徴を引き出して  を  にする。

- ・各自がつくった旋律を3人班で工夫しながら組み合わせてつなげたり、残り2小節を自由につくったりして8小節の旋律をつくる。
- ・神田囃子『投げ合い』の演奏から気付いたことや感じ取ったことを生かすようにする。
- ・まとまりを意識した音楽をつくる。まとまりを意識した音楽とは「順次進行や同音進行を基本にして、反復などの仕組みを用いた音楽」とする。
- ・終止音については第5時で学習する予定だが、第3時の活動で終止音を意識してつくっている児童の姿が見られた場合は全体で共有して学習する。

## 4 研究主題に迫るための手立て

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

#### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

- ・神田祭で神輿を担いだ経験を想起しながら保存会の生演奏を目の前で鑑賞し、音楽づくりのヒントを得るといふ心躍る音楽との出会いの場を設け、主体的に学ぼうとする意欲をもてるようにする。また「お茶小ばやし」を立志式で発表するという目標を設定し、見通しをもって取り組むことができるようにする。
- ・思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けるための常時的な活動として、即興的に一人4拍のフレーズをつなげていくリコーダーリレーなどに取り組むことで、旋律の音の動きの特徴や、お囃子の特徴である反復が生み出すフレーズのよさや面白さなどに気付けるようにする。

#### ○個別最適な学びを実現する工夫

- ・リコーダーで吹いて試しながら音楽をつくる活動が負担にならないよう、旋律のつなげ方は順次進行に加えて同音進行を基本にしてつくるようにする。また、班でつなげて吹くときは一人で演奏してもよいし友達と演奏してもよいことにして、一人一人の学習進度に合わせて取り組めるようにする。
- ・学習ソフト[ミライシード:オクリンクプラス]を用い、試行錯誤しながら音を線をつないで記録することで、どの児童も取り組みやすくする。それによって達成感を得たり、学びの楽しさを感じたりすることができるようにする。

### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

#### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

- ・保存会との交流によって、伝統を受け継ぐ人の思いを感じ取ったり地域の音楽と生活との関わりについて考えたりする。また、生の演奏に触れることで音楽づくりの手がかりを得ることができるようにする。
- ・聴き取ったことと感じ取ったことを関連付け、構造を整理するために「ロジックツリー」という思考ツールを使用することで学習を深めていけるようにする。つくった音楽に向き合う時間や互いに聴き合う時間を確保し、音楽で伝え合い、よさや面白さについて共有しながら音楽づくりに取り組む場を設ける。

#### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

- ・オクリンクプラスで振り返りを行い、学びのポートフォリオとして集積する。毎時間のめあてに応じて、何について振り返るのか具体的な観点を提示し、めあてから逸れないようにする。次の時間に振り返りを全体で共有し、適切なフィードバックを行いながら本時のめあてに関連付けていくことで学びを深めていくようにする。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

- ・地域の人材と連携し、互いのよさを生かせる生き方について考えることで、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育てる。
- ・新年の行事「伝統文化にふれる会」、総合的な学習の時間「SDGsわたしたちにできること」社会科「きょう土のはってんにつくす 残したいもの伝えたいもの」などの学習の成果を音楽科の学習と教科等横断的に関連付け、地域の音楽のよさや面白さ、美しさを、実感を伴って捉え、我が国の伝統や文化への理解を深める系統的かつ深い学びへと発展させていくようにする。

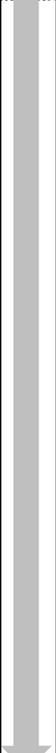
5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知音やフレーズのつなげ方などの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。(づ)</p> <p>②技思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けている。(づ)</p>	<p>①旋律、音階、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(づ)</p>	<p>①祭り囃子の音楽の特徴や旋律をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(づ)</p>

6 題材の指導計画と評価計画

5時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<p>&lt;第一次のねらい&gt;神田囃子の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気づき、2小節の旋律をつくる。</p>					
1	<p>○『投げ合い』を聴いて、祭り囃子の曲想や、リズム、旋律、音階などの特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の神田祭で演奏された神田囃子『投げ合い』の動画を視聴する。</li> <li>・「お茶小ばやし」をつくることを知る。</li> </ul> <p>・『投げ合い』の篠笛のみの演奏を聴いたり楽譜を見たりしてリズム、旋律、音階、反復などの特徴に気付く。</p> <p>・ミファラシド（ミ）の五音を使って、学習ソフトで一人2小節の旋律をつくる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T「どのようなことを考えてせんりつをつくりましたか」                      C「できるだけ隣同士の音を使ってつなげようと考えました」                      C「お囃子らしく高い音を使おうと考えました」</p> </div>	<p>◇参加した神田祭の雰囲気を出しながら聴くように促す。 &lt;視点3&gt;</p> <p>◇「お茶小ばやし」を立志式で発表することを伝える。 &lt;視点1&gt;</p> <p>◇聴き取ったことと感じ取ったことについての発言を教師が思考ツールにまとめる。 &lt;視点2&gt;</p> <p>◇『さくらさくら』などの既習事項を思い出しながら音階の特徴に気付くように助言する。 &lt;視点2&gt;</p> <p>◇3つのリズムパターンを提示する。</p> <p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p> <p>◇児童から引き出した「リズムがはずんでいる」を指して、上記のリズムの8分音符を付点8分音符と16分音符の組合せにする。 &lt;視点2&gt;</p> <p>◇音の動き方や連なり方を試しながら、まとまりを意識してつくるように促す。 &lt;視点2&gt;</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくった旋律を数人が発表する。</li> <li>・本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇電子黒板に表示し、音の高さやつなげ方を視覚的にも確かめられるようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇今日の旋律づくりについて振り返るように伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>			
2	<p>○音やフレーズのつなげ方などの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ソフトで前時の振り返りを確認し、本時のめあてをつかむ。</li> </ul> <div data-bbox="240 600 699 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【第1時の振り返りより】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い音を使った。</li> <li>・隣同士の音を使った。</li> <li>・弾むようなリズムでつくった。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神田囃子保存会から神田囃子の歩みや楽器についての話を聞く。</li> <li>・『投げ合い』の生演奏を聴く。</li> <li>・音楽の特徴について質問する。</li> </ul> <div data-bbox="240 943 699 1115" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される質問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズの繰り返しが多いのですか。</li> <li>・お囃子はなぜ速いテンポなのですか。</li> <li>・アドリブで演奏しているのですか。</li> <li>・お囃子はどのように終わるのですか。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を発表する。</li> <li>・本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の振り返りから、本時のねらいにつなげる。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇スライドを用いて写真などで説明していただく。 <b>〈視点1・2・3〉</b></li> <li>◇前時に作成した思考ツールを印刷したものをしながら質問するように伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇前時で思考ツールを使ってまとめた時に、特徴を捉えていた児童数名を指名する。 <b>〈視点2・3〉</b></li> <li>◇神田祭に欠かせないお囃子についての感想や、いつも祭りを盛り上げてくださっていることの感謝の気持ちを伝えるように促す。 <b>〈視点2・3〉</b></li> <li>◇生演奏や保存会の話を聴いて、分かったことや次時に生かしたいことを書くように伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>	 <p>① 知 発 言 ・ 記 述</p>		
<p>&lt;第二次のねらい&gt;祭り囃子の特徴を考えながら、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、まとまりのある旋律をつくる。</p>					
3	<p>○各自がつくった旋律と班で考えた2小節を組み合わせて、まとまりを意識した8小節の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ソフトで前時の振り返りを確認し、本時のめあてをつかむ。</li> </ul> <div data-bbox="240 1760 699 1890" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【第2時の振り返りより】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順次進行で進んでいる。</li> <li>・高い音が続いている。</li> <li>・反復がたくさんある。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・即興的に一人4拍のフレーズをつなげていくリコーダーレーなどの常時的な活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の振り返りから、本時のねらいにつなげる。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇拍にのることができるように、お囃子のリズムを使用する。 <b>〈視点1〉</b></li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3人組の班で各自がつくった2小節の旋律をつなげたり、残りの2小節を考えたりしてまとまりを意識した8小節の旋律をつくる。</li> <li>・ つくった旋律を学習ソフトに記入する。</li> <li>・ 本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇音をつなげる際には、まとまりを意識した音楽になるように個人でつくった旋律を修正してもよいことを伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇何度も吹いて試し、修正を加えながらつくるように促す。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇班でどのような工夫をしたのかを書くよう伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇自分はどのような思いで、どんな工夫を提案したのかを個人の振り返りシートに入力するよう伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>			
<p><b>4 本時</b></p>	<p>○どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽をつくって演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習ソフトで前時の振り返りを確認し、本時のめあてをつかむ。</li> </ul> <div data-bbox="231 853 727 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【第3時の振り返りより】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順次進行になるように音を変えた。</li> <li>・ 反復を効果的に使うようにした。</li> <li>・ 最後の音を終わる感じの音にした。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即興的に一人4拍のフレーズをつなげていくリコーダーリレーなどの常時的な活動に取り組む。</li> <li>・ 学習ソフトでつくった旋律を確認する。</li> <li>・ まとまりを意識した8小節の旋律を班で完成させ、つなげて演奏する。</li> <li>・ 8小節の旋律をつなげて演奏できた班は、お囃子のリズムに合わせて発表し、感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の振り返りから、本時のねらいにつなげる。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇拍にのることができるように、お囃子のリズム音源を使用する。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇電子黒板に表示し、まとまりを意識した音楽になっているかを確認するように促す。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇「順番に吹く」「全員で一斉に吹く」など、班で工夫して演奏するように伝える。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇活動を見て回りながら、一人で演奏するのが難しい児童は友達と一緒に吹いてもよいことなどを伝える。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇祭り囃子の特徴を効果的に表現している班を取り上げ、教師が価値付けすることで児童がそのよさに気付くことができるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>		<p>① 行動観察・演奏聴取・記述</p>	
<p><b>5</b></p>	<p>○各班の旋律をつなげて「お茶小ばやし」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習ソフトで前時の感想を確認し、本時のめあてをつかむ。</li> </ul> <div data-bbox="253 1877 708 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【第4時の感想より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順次進行でつくるとなめらかな感じがする。</li> <li>・ 反復を使うとお囃子っぽくなる。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の感想から本時のねらいにつなげる。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・即興的に一人4拍のフレーズをつなげていくリコーダーレーなどの常時的な活動に取り組む。</li> <li>・班でつくった旋律を演奏する。</li> <li>・終止音について確認する。</li> <li>・班ごとにつくった旋律を全員でつなげて「お茶小ばやし」をつくる。</li> <li>・題材を通しての振り返りを行い、全体で共有する。</li> </ul>	<p>◇拍にのることができるようにお囃子のリズム音源を使用する。 <b>〈視点1〉</b></p> <p>◇演奏している様子を見て回り、全員でつなげて演奏できるよう助言する。 <b>〈視点1〉</b></p> <p>◇児童の演奏を例にして「続く感じ」「終わる感じ」について考えるように促し、終止音について説明する。</p> <p>◇終止音がラまたはミの班が「お茶小ばやし」の最後に演奏することで、「終わる感じ」になることに気付くようにする。</p> <p>◇最初は教師が締め太鼓で拍を打ち、拍に合わせて演奏するよう促す。 <b>〈視点1〉</b></p> <p>◇慣れてきたら、神田囃子のリズム音源に合わせて演奏するよう促す。 <b>〈視点3〉</b></p> <p>◇「お茶小ばやしをつくろう」の学習で考えたこと、今後の学びに生かしたいことを書くように伝える。<b>〈視点2・3〉</b></p>	 ② <b>技</b> 発言・聴取・記述	 ① 発言・記述・行動観察
<p><b>【共有したい振り返り例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祭囃子の特徴を「お茶小ばやし」に生かすことができた。</li> <li>・順次進行にしたり反復させたりして（まとまりを意識しながら）つくることができた。</li> <li>・保存会の人や友達と交流することで、音楽がどんどんよくなった。</li> <li>・神田地区に伝わる音楽に、これからも関わっていきたい。</li> <li>・立志式では、学年の友達全員をお祝いする気持ちで「お茶小ばやし」を演奏したい。</li> </ul>			

## 7 本時の展開

### 4 時間目

#### (1) 本時のねらい

旋律、音階、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽をつくって演奏する。

#### (2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
○どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽をつくって演奏する。	

- ・学習ソフトで前時の振り返りを確認し、本時のめあてをつかむ。

**【第3時の振り返りより】**

- ・順次進行になるように音を変えた。
- ・反復を効果的に使うようにした。
- ・最後の音を終わる感じの音にした。

◇前時の振り返りから本時のねらいにつなげる。

〈視点2〉

**工夫して自分たちの班のせんりつをつくろう**

- ・即興的に一人4拍のフレーズをつなげていくリコーダーリレーなどの常時的な活動に取り組む。
- ・学習ソフトでつくった旋律を確認する。

**【まとまりを意識してつくるには】**

- ・順次進行、同音進行を基本にしてつくる。
- ・反復などの仕組みを効果的に使う。

- ・まとまりを意識した8小節の旋律を班でつくり、つなげて演奏できるようにする。

- ・8小節の旋律をつなげて演奏できた班は、お囃子のリズムに合わせて発表し、感想を交流する。

◇拍にのることができるようにお囃子のリズム音源を使用する。

〈視点1〉

◇電子黒板に表示し、まとまりを意識した音楽になっているか確かめるように促す。

〈視点1〉

◇「順番に吹く」「全員で一斉に吹く」など、班で工夫して演奏するように伝える。

〈視点2〉

◇班の活動を見て回りながら、一人で演奏するのが難しい児童は友達と一緒に吹いてもよいことなどを伝える。

〈視点1〉

◇祭り囃子の特徴を効果的に表現している班を取り上げ、教師が価値付けすることで児童がそのよさに気付くことができるようにする。

〈視点2〉

◆旋律のつなげ方の特徴に気付くとともに、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【思・判・表】〈行動観察・演奏聴取・記述〉

〈Aと判断される児童の状況〉

- ・自分なりの考えをもって、つくるとき条件（音の動き方や連なり方など）を自ら広げたり、変化させたりしている。
- ・旋律の動きやつなげ方について深く考えながら、まとまりを意識した音楽をどのようにつくるかについてのはっきりとした思いや意図をもっている。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- ・友達の演奏やつなげ方の理由を聞いて参考にしながら、自分なりの考えをもてるように支援する。
- ・つくった旋律を演奏することが技能的に難しい児童に対しては、個別に指導したり、演奏しやすいような音やリズムに変えることを提案したり、友達と一緒に演奏することを提案したりする。

助言者の言葉

千代田区の取組とその具体の研究授業「お茶小ばやしをつくろう」には、人々の生活や社会と音楽との関わりを深耕する、地域の神田囃子保存会との協働、神田囃子『投げ合い』の鑑賞と「お茶小ばやし」をつくる活動との有機的な関連など、刮目すべき内容に満ちています。ぜひ、3つの視点「主体的な学び」「協働的な学び」「深い学び」の内実と、その実現に向けた「具体的な手立て」に着目して、題材構成と本時の研究授業を御覧ください。

国立音楽大学 教授 津田 正之

# 中央区の取組

研究チーフ 久松小学校 藤井 小百合  
授業チーフ 久松小学校 北村 桃子



## 1 中央区の取組の概要

本区では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童が自ら課題を明確にし、児童同士や教師との対話を通して学びを広げ、思いや考えを深め合うことに重点を置いて、実践的に授業研究を進めてきた。令和5年度から表現領域の歌唱分野において、児童が音楽のよさや価値を見だし、喜々として音楽に関わろうとする姿、さらに生活や社会と結び付けて自己実現しようとする姿を目指している。本大会では、これまでの授業研究や実技研修を通して研究主題に迫り、指導の視点や手立てを、学習の系統性や横断性との関わりを意識しながら検討し、授業改善を図ってきた。

## 2 研究の視点について

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

児童が詩のよさを味わい、詩と音楽との結び付きに着目しながら演奏者の表現の工夫に気づき、自らの歌唱表現に生かすことを目指して、表現と鑑賞を関連付けた題材を構成した。個別のワークシートや一人一台端末を活用して、題材を通じた学びの積み重ねを可視化することで、児童が自己の課題を明確に、振り返りながら学習を調整し、次時への見通しをもって主体的に歌唱表現に取り組めるようにした。さらに、教師が学習状況を把握しながら助言や価値付けを行い、児童の振り返りを深め、児童一人一人に応じた学びを支えながら、個別最適な学びの実現を図った。

### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

児童が詩の内容、曲想のよさや面白さ、美しさを基に、自分の表現に対する思いや意図を明確にし、対話を通して互いの考えを交流することで、より豊かな歌唱表現を目指した。個人で考える時間を確保した上で、3～4人の少人数グループや全体での活動へと試行錯誤を重ねながら学び合う学習形態を設定した。教師は、児童の発言を価値付けたり問い返したりすることで、表現の工夫の根拠を明確にし、考えを広げたり深めたりできるようにした。また、言葉による交流だけでなく、拡大楽譜にまとめた工夫を全員で歌い試したり聴き合ったりする活動を取り入れ、表現の比較や変容を実感できるようにした。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

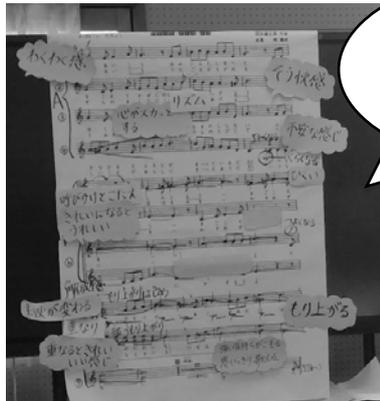
音楽科の学びを、他教科や学校行事等と関連付け、児童が生活や社会、将来の自分の生き方と結び付けて考えられるようにした。国語科と音楽科の学習を横断的に位置付け、言語表現と歌唱表現を往還させながら学びの充実を図った。また、キャリア教育「中学校に向けて」や作曲家との交流を通して、自分自身を振り返ったり、互いのよさに気付いたりしながら学びを深めた。さらに、学習の成果を集会や謝恩会などの学校行事で発表する場を設け、満足感や達成感を得られるようにした。

## 3 事前授業を通して

表現の工夫の手掛かりとなる言葉や拡大楽譜等の活用は、児童が課題を明確にし、具体的な表現の工夫を考える際に有効であった。少人数グループで表現の工夫を歌い試す活動は、児童が変容を実感しながら学びを深めることにつながった。児童の思いを実現するために、教師がどのように適切な助言や価値付けを行い、系統的な指導の積み重ねや手立てを表現に生かすかについては、今後さらに研究を進めていく。

#### 4 大会授業の取組の実際

##### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現



盛り上がりを出すために、この旋律を少しずつ強くしたいですね。



3連め「このみちのさきには～」は、二つの旋律の掛け合いがあっているな。

児童が作詞者と作曲者の意図や演奏者の工夫に気付いたことを、教師が音色や強弱、音の重なりなどの音楽を形づくっている要素と結び付けて分類し、児童はその要素を自分の歌唱表現の工夫の手掛かりとするようにした。児童はワークシートの歌詞や楽譜に大切に歌いたい部分や表現を工夫したい部分に印を付け、主体的に音楽に関わろうとする姿が見られた。記述した内容や発言から、教師が児童一人一人の課題に助言したり、考えの近い児童同士でグループ編成したりしながら主体的な学びを調整できるようにした。

##### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現



言葉や旋律の動きに合わせた表現になっているかな？

ソプラノとアルトの音の高さや音量のバランスはどうする？



自分の表現に対する思いや意図を明確にもった上で、同じパートの少人数グループで歌い、試したり確認したりするようにした。次に、同じパートの別グループと表現の工夫を交流し、表現を共有しながら考えを広げ深め合うようにした。さらに、グループ相互での課題解決を重ねる中で、全体で共有しながら歌唱表現をつくり上げようとする姿が見られた。教師は児童の思いや意図を受け止め、必要に応じて技能面を補い支えながら、児童が考えた歌唱表現を実現できるようにした。

##### 視点3 学んだことを生かすつなげる深い学びの実現



国語科「詩の日」での発表

自作の詩の掲示



自作の詩「このみち」を朗読する活動を設定し、児童が言葉の響きやリズム、込められた思いを感じ取れるようにした。その上で、言葉と旋律との関わりを実感し、『このみち』の曲想にふさわしい豊かな歌唱表現を追求する姿を目指した。また、作曲者との交流を通して曲に込められた思いを知り、それを自分の歌唱に生かすようにした。さらに、発表を通して互いのよさを認め合い、歌う喜びや達成感を得ることで、深い学びにつなげるようにした。

## ◆ 第6学年 学習指導案◆ 「わたしたちの『このみち』を表現しよう」

教材 『この道』  
『このみち』

中央区立京橋築地小学校  
指導者 上出 奈央 主任教諭

### 1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、音色、強弱、音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 曲や演奏のよさを見いだしながら、曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組み、日本語の歌曲に親しむ。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態

本学級の児童は、第4学年から担当している。第5学年 歌唱『いつでもあの海は』の学習では、旋律の重なり方の違いや強弱の変化に気付き、歌に込められた思いを表現の工夫に生かすことができた。『宝島』の学習では、歌詞を手掛かりに児童一人一人が表現に対する思いや意図をもち、互いの考えを交流しながら表現の工夫をし、学習を深めることができた。鑑賞『待ちぼうけ』では、詩と音楽との関わりについて理解し、興味をもって取り組んだ。第6学年『ふるさと』の学習では、歌詞の内容や曲想を生かして、グループで表現を工夫する活動をした。しかし、児童一人一人が表現に対する思いや意図をもっているが、互いの考えを交流してよりよい表現へとまとめていったり、表現の工夫を実現したりする学びには至っていない。

そこで本題材では、詩のよさを味わい、詩と音楽との結び付きに着目しながら、自分たちの思いや意図をどう表すか意見交流したり、歌い試したりしながら、表現を高めていく。表現と鑑賞の一体化を図り、演奏者の表現の工夫に気付いて、自分たちの考えや表現を深めるようにする。そして、表現を工夫する面白さや楽しさを実感するとともに、自分たちでよりよい表現を目指そうとする主体的な態度や気持ちを育んでいきたい。

##### ②題材の意義

本題材では、鑑賞で、作詞者と作曲者の意図や、演奏者の表現の工夫を聴き取ったり感じ取ったりし、自分たちの歌唱表現に生かすようにする。『この道』の作曲者である山田耕筰が、築地にゆかりの深い人物であることや、日本文化と西洋音楽を結び付ける試みを生涯通じて続けた功績を知ること、児童が親しみをもって曲と関わられるようにしていく。また、鑑賞の学びが歌唱表現の手掛かりとなるよう、題材を通したワークシートを活用したり、児童の発言した言葉を蓄積して掲示したりする。歌唱では、『このみち』を音読して詩のよさを十分味わった上で曲と出会い、作詞者や作曲者の意図に気付くようにする。そして、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌唱表現を工夫する。その際、個人、グループ、全体の活動を適切に組み合わせることにより、交流した考えを実際に歌い試したり、聴き合ったりしながら、協働

的に考えや表現を広げ深めることができるようにする。

## (2) 学習指導要領との関連

【A表現】(1) 歌唱 ア・イ・ウ(イ)ゆ

【B鑑賞】ア・イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 音色、強弱、音の重なり

イ 音楽の縦と横との関係

## 3 教材について

### ●『この道』北原白秋作詞 山田耕筰作曲

出典：さくら横ちょう 演奏 佐藤美枝子 VIC60276

出典：早春賦 演奏 鮫島有美子 GES-9845

3拍子と2拍子の変拍子により、歌詞を生かし、語るように歌う旋律となっている。また、旋律の最後には、じっくり余韻を楽しむようなフェルマータがついており、演奏者による歌唱表現の違いが生まれ、工夫を聴き取りやすい。第1時に比較聴取することで、音色や強弱、速度による表現の違いや工夫に気付き、第2時以降の自分たちの歌唱表現に生かすようにする。

佐藤美枝子氏の演奏は、音色や強弱の変化が大きく、表情豊かに歌い上げる。鮫島有美子氏の演奏は、一つ一つの言葉を鮮明に、語り掛けるように歌う。それぞれの演奏のよさを見だし、言語化しながら、「どのように伝えるか」という演奏者の意図を考えるようにしたい。

### ●『このみち』金子みすゞ作詞 ことりゆき作曲

出典：金子みすゞ・矢崎節夫の詩による新しい童話曲集 わたしと小鳥とすずと KGO-1150 H01

金子みすゞの4連の詩によるABA'の三部構成、部分二部合唱の曲である。A1、2番はへ長調の斉唱で、主な旋律がヨナ抜き音階で親しみやすい。B3番は変イ長調に転調し、二つの旋律が様々な重なり方の二部合唱となる。A'4番は再びへ長調のAの旋律に戻り、前半4小節は斉唱、後半は二部合唱しながら「みんなでみんなでゆこうよ」のコーダ部分へ向かう。歌詞の内容や言葉の反復、抑揚が音高と結び付き、歌声が重なって生み出される響きを聴き取ったり、他の声部との関わりを意識して歌ったりしながら、豊かな歌唱表現の工夫へとつなげやすい教材である。

## 4 研究主題に迫るための手立て

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現

#### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

- ・二つの『この道』の演奏を比較聴取し、演奏者の表現の工夫を捉え、歌唱表現の工夫に対する意欲を高める。また、音楽を形づくっている要素を手掛かりに、自分たちの歌唱表現に生かせるように学習展開を工夫する。
- ・児童が何を学んだのかを振り返り、課題を次に生かせるように、題材を通して学びの積み重ねを可視化できるワークシートを作成して活用する。

#### ○個別最適な学びを実現する工夫

- ・児童一人一人が、演奏者の表現の工夫を見だし、そのよさについて記述したり、大切に歌いたい部分を選んで表現の工夫を考えたりするなど、選択する場を設定して思いや意図をもちやすくし、主体的に学習に向かえるようにする。
- ・個別のワークシートや一人一台端末の活用により、教師が児童一人一人の学習状況を把握する。個の実態に応じた助言や価値付けをしながら、児童が課題を明確にして学習に取り組めるようにする。

## 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

- ・個人から少人数グループ、全体での表現活動と、学習内容に応じた学習形態を適宜設定し、互いの考え方・感じ方を広げ深めるようにする。
- ・児童一人一人が思いや意図をもつ時間を十分に取るとともに、活発に意見交流できるようにグループの人数を3～4人として、試行錯誤しながら学び合うようにする。

### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

- ・全体指導では、「どうしてそう考えたのですか」「○○さんの考えについてどう思いますか」「どのようにきこえましたか」など、児童の発言に対する価値付けや問い返しを行いながら、表現の工夫の根拠を明確にして、考えを広げたり深めたりしていく。
- ・児童がこれまでの学びの蓄積を活用しながら活動できるように、表現の工夫の手掛かりとなる言葉や拡大楽譜を提示し、いつでも共有できるようにする。言葉だけの交流にならないよう、全員で歌い試したり、聴き合ったりする活動を入れて、児童が表現の変容を実感しながら学びを深めるようにする。

## 視点3 学んだことを生かすつなげる深い学びの実現

- ・本校で年4回取り組んでいる詩の集会での学びを生かし、「詩の時間」として自作の詩「このみち」の朗読を行う。児童一人一人が言葉の表現に対する思いや意図をもち、互いに多様な考えを交流しながら学習を深めていく。本題材の学習の成果をまとめ、歌唱『このみち』を集会や謝恩会で発表し、達成感が得られるようにする。
- ・金子みすゞの詩「このみち」を通して、国語科「詩の日」や特別活動、作曲者との交流の機会から、自分自身を振り返ったり、互いのよさに気付いたりする。そして、これからの生き方について考えるキャリア教育につなげ、生活や社会と音楽とのつながりを意識した学びを深めていく。
- ・中央区や本ゾーン各地区とゆかりある山田耕筰の歌曲に触れ、日本の歌曲への興味・関心を高める。また日本の音楽が生活に深く関わっていることに気付き、様々な音楽に目を向けるなど、多様な視野をもった児童の育成を目指して学びを深めていく。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知曲想及びその変化と、音色、強弱、音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(歌・鑑)</p> <p>②技思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。(歌)</p> <p>③技思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌)</p>	<p>①音色、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)</p> <p>②音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌)</p>	<p>①曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴く活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(鑑)</p> <p>②歌詞の内容や曲の特徴にふさわしい表現を工夫する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(歌)</p>

6 題材の指導計画と評価計画

6 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<p>&lt;第一次のねらい&gt; 曲想や表現の工夫のよさを味わって聴いたり、詩と音楽との結び付きや曲の特徴を理解して歌ったりする。</p>					
1	<p>○『この道』の曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『この道』の歌詞の内容や様子の移り変わりを捉えて音読する。</li> <li>楽譜を見て作曲者の意図について意見交流をする。</li> <li>二つの演奏を聴き比べ、演奏者の表現の工夫について気付いたことを共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aの方が3番を優しく歌っている感じがする。(音色の変化)</li> <li>Bは、強く歌ったり、弱く歌ったりして寂しさが伝わるように表現している。(強弱の変化)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の歌曲のよさを味わいながら聴く。</li> <li>気付いたことや学んだことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇言葉のリズムに気付かせ、情景と心情の変化について、内容の移り変わりに沿った読み方を工夫するように促す。 <b>〈視点3〉</b></li> <li>◇言葉の抑揚と旋律との関わりについて山田耕筈の意図に着目するように声掛けをする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇一人一台端末にまとめられた児童の意見を、全体で共有できるようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇言葉の反復や連ごとの情景、心情の変化による演奏者の表現の工夫に気付いたり、表現のよさを味わったりできるようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇ゆかりのある山田耕筈の功績や歌曲が生活や社会に関わることに気付くようにする。 <b>〈視点3〉</b></li> <li>◇気づきを音色や強弱などの要素と結び付けて分類し、学びを次時に生かすことを伝える。 <b>〈視点1〉</b></li> </ul>		<p>① 発言 ① 思 発言 記述</p>	<p>① 発言 記述 行動観察</p>
2	<p>○『このみち』の詩と音楽との結び付きや曲の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『このみち』の詩から気付いたことや大切に歌いたい部分を見付け、伝え合う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ言葉を繰り返して強調している。</li> <li>「みんなでゆこうよ」と励ましている内容だと思う。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>『このみち』の詩に、作曲者がどのような旋律を付けたのかを予想する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『この道』みたいに、1～4番まで同じ旋律ではないか。</li> <li>言葉の繰り返しは、旋律も同じリズムの繰り返しになっているのではないか。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>演奏CDを聴き、気付いたことや感じ取ったことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇鑑賞の学びを生かし、作詞者の意図を考えるよう声掛けをする。</li> <li>◇金子みすゞの生涯について伝え、詩の背景に目を向けるようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇詩に対する作曲者の意図を予想するように伝え、拡大歌詞に児童の意見を記入する。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇児童の発言から音色や強弱、音の重なりなどの音楽の構造に結び付け、</li> </ul>			

	<p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の感じが変わったと感じたのは、旋律が変わったからだと思う。</li> <li>・途中から二つのパートが重なって盛り上がった感じがする。</li> </ul> <p>・旋律の特徴や言葉のまとまりを捉えながら、主な旋律を歌う。</p>	<p>曲の特徴につなげるようにする。  <b>〈視点2〉</b></p> <p>◇歌詞の内容や反復などの、旋律の特徴を捉えて歌うように声掛けをする。  <b>〈視点2〉</b></p>	<p>① 知 発 言 ・ 記 述</p>	
3	<p>○『このみち』を自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の詩を朗読する。</li> <li>・前時の学習を振り返りながら『このみち』の主な旋律を歌う。</li> <li>・副次的な旋律を歌う。</li> <li>・各パートに分かれ、3、4番を二部合唱する。</li> <li>・1番と2番を中心に学級全体で表現の工夫を考え、意見を共有しながら歌い試す。</li> </ul>	<p>◇「詩の日」の時間に、『このみち』を題材とした詩を各自がつくり、伝え合うようにする。  <b>〈視点2〉</b></p> <p>◇拡大楽譜の主な旋律と副次的な旋律を色別に示し、音の重なり方の違いを視覚的に確認できるようにする。</p> <p>◇教師が主な旋律を歌い、児童が旋律の重なりを意識できるようにする。</p> <p>◇音の高さや長さに気を付けるよう声掛けし、自然で無理のない、響きのある歌い方について指導する。</p> <p>◇音の重なり方で気を付けることや歌詞の内容にふさわしい音色や強弱について、意見が出るように発問を工夫する。  <b>〈視点2〉</b></p>	<p>② 技 演 奏 聴 取</p>	
<p>&lt;第二次のねらい&gt; 『このみち』の音色、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、二部合唱する。</p>				
4	<p>○『このみち』の音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、3番の曲の特徴にふさわしい表現について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の詩を朗読する。</li> <li>・前時までの学習を振り返り、1～3番を歌う。</li> <li>・3番の旋律の特徴や歌詞の内容を確かめながら各パートの旋律を歌う。</li> <li>・自分が大切に歌いたい部分や表現の工夫について、考えたことをワークシートに記述する。</li> </ul> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは「○○」という歌詞があるから寂しそうに歌いたい。</li> <li>・音がだんだん上がっているから強く歌って気持ちを盛り上げたい。</li> </ul>	<p>◇音の重なり方を色別に示した拡大楽譜を提示し、視覚的に確認できるようにする。  <b>〈視点2〉</b></p> <p>◇各パートの旋律の特徴に気付き、音楽の縦と横との関係を意識して歌うように声掛けをする。</p> <p>◇歌詞の内容や旋律の特徴にふさわしい表現の工夫など、自分の思いを記述するように伝える。  <b>〈視点1〉</b></p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに3～4人のグループになり、各自の意見を拡大楽譜にまとめる。</li> <li>・考えた表現の工夫をグループごとに歌い試したり、友達の工夫を見付けたりする。</li> <li>・ワークシートに振り返りを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇各グループの表現の工夫をまとめた拡大楽譜を掲示する。</li> <li>◇言葉だけの交流ではなく、必ず歌い試したり、聴き合ったりするように声掛けをする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇自分の考えが変化したり広がったりしたかを問い掛ける。 <b>〈視点1〉</b></li> </ul>	
5 本 時	<p>○『このみち』の音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、3番の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の詩を朗読する。</li> <li>・前時までの学習を振り返り、1～3番を歌う。</li> <li>・前時に考えた表現の工夫をグループごとに歌い試し、確認する。</li> <li>・歌い試したことを同じパートのグループ同士で発表し合い、表現の工夫を共有する。</li> <li>・全体で、パートごとにグループの考えを共有しながら表現をつくり上げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ソプラノグループの考えを歌い試す。</li> <li>②アルトグループの考えを歌い試す。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○小節目はだんだん音が高くなり、盛り上がる感じなので、強くしていくと気持ちも盛り上がってよかった。</li> <li>・△小節目は、歌詞に「□□」とあるので弱くする方がいいという考えと、大切な歌詞なのではっきり強く歌う方がよいという二つの考えがありました。</li> <li>・二つを比べて聴くと、弱く歌う方が歌詞の意味が伝わると思いました。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫を生かして1～4番を二部合唱する。</li> <li>・ワークシートに振り返りを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「詩の日」の時間に、『このみち』を題材とした詩を各自がつくり、伝え合うようにする。 <b>〈視点3〉</b></li> <li>◇音の重なり方を色別に示した拡大楽譜を提示し、視覚的に確認できるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇各グループの表現の工夫をまとめた拡大楽譜を掲示しておく。</li> <li>◇教師は、巡視しながら問い掛けたり確認したりして、児童の思いやグループの考えを引き出すようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇①ではアルトが、②ではソプラノが聴き役となり、互いのパートの表現の工夫について意見を伝えるように促す。</li> <li>T「実際に歌ってどのように思いましたか」</li> <li>T「どちらの表現がふさわしいと思いますか。それはなぜですか」</li> <li>T「ソプラノ（アルト）の表現の工夫を聴いてどのように思いましたか」</li> <li>T「それでは、この部分は～のように歌っていきましょうか」</li> <li>◇全体で歌い試した際の児童の反応や発言から、拡大楽譜に工夫をまとめる。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇音楽の縦と横との関係を意識し、これまでの表現の工夫を生かして歌うよう声掛けをする。</li> <li>◇自分の考えや歌い方の変容を振り返るようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> </ul>	<div style="text-align: center;">  <p>② 行 動 観 察 ・ 発 言 内 容 ・ 記 述</p> </div>

6	<p>○ 『このみち』の曲の特徴にふさわしい表現の仕方を生かし、各パートの歌声や全体の響きを聴き合って二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の詩を朗読する。</li> <li>・前時までの学習を振り返り、1～4番までを歌う。</li> <li>・4番の旋律の特徴や音の重なり方について、意見を共有する。</li> <li>・共有した意見をもとにして表現の工夫を考え、各自ワークシートに記述する。</li> <li>・表現の工夫について全体で共有し、歌い試す。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ旋律だけれど、音が重なるから1、2番とは違うように歌ったほうがいいかな。</li> <li>・「みんなで」を繰り返すから、1回めは優しく歌おう。</li> <li>・同じ歌詞を繰り返すから、2回めを強くして思いが伝わるようにしたい。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの表現の工夫を生かして、全体を通して二部合唱する。</li> <li>・ワークシートに振り返りを記述する。</li> <li>・学習の成果を発表する見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇音の重なり方を色別に示した拡大楽譜を提示し、視覚的に確認できるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇拡大楽譜に共有した意見を追記しながら全体で確認していく。</li> <li>◇言葉の反復や速度の変化に注目させ、音色や強弱を手掛かりに表現の工夫を考えるよう促す。</li> <li>◇発言された内容や多数意見のみで進行しないように、問い直ししたり歌って確かめたりしながら様々な意見を取り上げるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>T「違う意見はありませんか」</li> <li>T「なぜ、そのように考えたのですか」</li> <li>T「本当に〇〇のように聞こえるか歌って確かめてみましょう」</li> <li>◇各パートの音の重なりや全体の響きを聴き合って歌うようにする。</li> <li>◇自分自身の考えを振り返ったり、互いのよさに気付いたりし、これからの生き方について意識するようにする。 <b>〈視点3〉</b></li> <li>◇集会や謝恩会で学習の成果を発表する見通しをもたせる。 <b>〈視点3〉</b></li> </ul>	<p>③ 技 演奏 聴取</p>	<p>② 行 動 観 察 ・ 発 言 内 容 ・ 記 述</p>
---	--	---	------------------------------	--

## 7 本時の展開

### 5 時間目

『このみち』の音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、3番の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

#### (2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
<p>○ 『このみち』の音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、3番の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の詩を朗読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「詩の日」の時間に、『このみち』を題材とした詩を各自がつくり、伝え合うようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>〈視点3〉</b></p>

- ・前時までの学習を振り返り、1～3番を歌う。

◇音の重なり方を色別に示した拡大楽譜を提示し、視覚的に確認できるようにする。〈視点2〉

『このみち』の3番の曲の特徴にふさわしい表現を工夫しよう。

- ・前時に考えた表現の工夫をグループごとに歌い試し、確認する。
- ・歌い試したことを同じパートのグループ同士で発表し合い、表現の工夫を共有する。

◇各グループの表現の工夫をまとめた拡大楽譜を掲示しておく。

- ・全体で、パートごとにグループの考えを共有しながら表現をつくり上げる。

◇教師は、巡視しながら問い掛けたり確認したりして、児童の思いやグループの考えを引き出すようにする。〈視点2〉

①ソプラノグループの考えを歌い試す。

◇①ではアルトが、②ではソプラノが聴き役となり、互いのパートの表現の工夫について意見を伝えるように促す。

②アルトグループの考えを歌い試す。

T「実際に歌ってどのように思いましたか」

【予想される児童の発言】

- ・○小節目はだんだん音が高くなり、盛り上がる感じなので、強くしていくと気持ちも盛り上がってよかった。
- ・△小節目は、歌詞に「□□」とあるので弱くする方がいいという考えと、大切な歌詞なのではっきり強く歌う方がよいという二つの考えがありました。
- ・二つを比べて聴くと、弱く歌う方が歌詞の意味が伝わると思いました。

T「どちらの表現がふさわしいと思いますか。」

それはなぜですか」

T「ソプラノ（アルト）の表現の工夫を聴いてどのように思いましたか」

T「それでは、この部分は～のように歌っていきましょうか」

- ・表現の工夫を生かして1～4番を二部合唱する。

◇全体で歌い試した際の児童の反応や発言から、拡大楽譜にまとめる。〈視点2〉

- ・ワークシートに振り返りを記述する。

◇音楽の縦と横との関係を意識し、これまでの表現の工夫を生かして歌うよう声掛けをする。

◇自分の考えや歌い方の変容を振り返るようにする。〈視点1〉

◆音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

思・判・表② 〈行動観察・発言内容・記述〉

〈Aと判断される児童の状況〉

- ・音色、強弱、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、自分の考えを他者と伝え合ったり共感したりしながら考えを広げ深めている。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- ・どのように歌うかについて思いや意図をもつことが難しい児童には、友達の意見から共感できる部分を見付けたり、教師が用意した選択肢から選ばせたりして、表現の工夫につなげられるようにする。また、表現の工夫を歌い試すことが難しい児童には、友達と一緒に安心して歌い試しながら考えるように促す。

助言者の言葉

この授業に向けて中央区は、一貫して“目の前の子どもの声や姿”を想像し、研究を重ねてきました。楽曲理解を深める時、どのように歌うか考える時、鑑賞や友達の歌声を聴く時、歌っていない時こそ、頭と心をワクワク働かせることができるか、子どもたちを思い浮かべて議論を交わしました。思いや憧れをどう歌声に表出するか、豊かな表現を求めて授業をつくってきました。本授業では、音楽の本質に向かって対話を重ねる子どもの姿と、子どもたちを、一歩前に進めるための教師の温かな、または鋭い一言にも期待しています。

日野市立平山小学校 指導教諭 後藤 朋子

# 港区の取組

授業チーフ 赤羽小学校 武田 美保子



## 1 港区の取組の概要

本区では、研究主題「音楽と主体的に関わり、共に学び続ける児童の育成」を掲げ、令和3年度から音楽づくりと鑑賞の関連を図る題材構成について研究を継続してきた。

本研究では、国際色豊かな港区の地域性を生かし、大使館との交流を関連付け、諸外国の音楽に親しむ題材を検討してきた。今回は地域への音楽文化の発信を盛んに行っているハンガリー大使館との交流を取り上げる。児童はこれまでの学習で日本各地に伝わる音楽への関心を深めてきた。本題材でハンガリー民謡のよさや面白さを味わうことで、日本や諸外国の様々な音楽が生活と深く関わっていることに気付き、親しんでいこうとする態度を育てていきたい。

## 2 研究の視点について

**視点1** 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

ハンガリー民謡を聴いたり歌ったりして気付いた特徴を基に音楽をつくる。さらに踊りの音楽を比較鑑賞するという学習過程の工夫により、児童が興味・関心を深めながら次の学びに向かえるようにする。提示する曲は、旋律やリズム、反復などの特徴を捉えやすい民謡、速度や踊りの種類の違いが捉えやすい音源や映像を選択した。また、題材の学習を集積するブック型ワークシートにより、児童が学習の見通しをもち、振り返りを次の

学習に生かすようにする。使う音を少しずつ増やすなど段階的に音楽づくりのルールを示したり、設定された音域の中から児童が選択できるようにしたりするなど、児童が安心して学べるように学習の進め方を工夫した。

**視点2** 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

個人の旋律を記入した色別シートを使い、友達と対話しながら、旋律の動きや反復を意識したグループの旋律をつくっていく。また、グループの発表を聴き合ったり、音楽に合わせて手拍子や踊りで盛り上げたりする活動を設定する。それにより、互いの違いやよさを認め合いながら、踊りの音楽を楽しむようにする。

第三次の鑑賞では、ハンガリー民謡から特徴を比較しやすい踊りの音楽を数曲提示する。児童は自分が興味をもった音楽についてグループに分かれて意見交流しながら、さらに聴き深め、曲や演奏のよさを見いだすようにする。

**視点3** 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

ハンガリーの民謡音楽家や大使館との交流授業、港区音楽部作成の紹介動画の視聴を通して、ハンガリーの文化や民謡への興味・関心を高める。また、本題材の学習を第6学年「日本や世界の音楽に親しもう」につなげるようにする。

## 3 事前授業を通して

1学期に実施した第5学年「和音の音による旋律づくり」では、リズムや使う音の条件を明確に設定することで、見通しをもって旋律をつくることができた。「歌うことができる旋律づくり」をねらいとすることで、自然な音の上がり下がりにより意識してつくる姿が見られた。また、一人でつくる、友達とつくるという自分に合った学び方を選択できるようにし、友達と対話しながら活動を進めるようにした。これらの手立てによって、自分の旋律と向き合うことができた。



## ◆第5学年 学習指導案◆「世界の音楽でつながろう～ハンガリーの踊りの音楽～」

教材『ハンガリーの踊りの音楽』

港区立青山小学校

『ハンガリーのリズムと音階による旋律づくり』指導者 佐々木 望美 主任教諭

### 1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、リズム、速度、旋律、音階、反復などの音楽の構造との関わりを理解するとともに、音階の音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気づき、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) リズム、速度、旋律、音階、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) ハンガリーの踊りの音楽の特徴を感じ取りながら表現したり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組み、諸外国に伝わる音楽や文化への関心を広げる。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態

第4学年「『さくらさくら』の音階でせんりつづくり」では、箏の音色と演奏のよさや面白さ、美しさを見いだしながら鑑賞し、音階の響きを感じ取りながら5つの音を組み合わせで個人で旋律の動きを工夫してつくり、グループでつなげ方を考えてまとまりのある音楽に構成する学習を行った。日本の音楽のよさに気付いたり、友達と協働して音楽をつくる楽しさを感じたりしながら、それぞれの作品のよさを認め合うことができた。第5学年「和音の音楽づくり」では音の上がり下がりの特徴によって曲想が変わることを理解しながら、音のつなげ方を工夫してまとまりのある音楽をつくった。2学期の「日本の音階で旋律づくり」では、音階から音を選んで即興的に旋律をつくることに慣れ親しむようにした。

##### ②題材の意義

「生き生きと音楽に関わり」では、これまで様々な地域に伝わる音楽を知り体験する活動を通して、日本の音楽への関心を高めてきた。本題材ではハンガリー民謡を聴き、歌ったり踊ったりする活動、個人でつくった旋律をグループでつなげる音楽づくり、ハンガリーの踊りの音楽の比較鑑賞を行う。これらの学習を通して、ハンガリー民謡の特徴を実感し、よさや面白さを味わい、世界の音楽に親しもうとする態度をさらに高めていくようにする。また、児童の実態や学習の進度に応じたデジタルワークシートを使用することで、自分のペースで学習を進めることができるようにする。

「学びを広げ、深め」では、児童同士が対話しながら試行錯誤してグループの音楽をつくる。それを全体で共有して共感する場面を意図的に設定することで、考え方や感じ方を広げ、深めるようにする。

「つなげる」では、国際色豊かな港区の地域性を生かし、大使館との交流を関連付けた題材構成を工夫することで、ハンガリー民謡に親しみ、世界の伝統的な音楽に対する児童の興味・関心を引き出す。そして、本題材での学びを第6学年「日本や世界の音楽に親しもう」につなげ、日本や諸外国の様々な音楽が生活と深く関わっていることに気づき、親しんでいこうとする態度を育てていくようにする。

## (2) 学習指導要領との関連

【A表現】(3) 音楽づくり ア(イ)・イ(イ)・ウ(イ)

【B鑑賞】ア・イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア (ア)リズム、速度、旋律、音階 (イ)反復

## 3 教材について

### ●『豚飼いが丘で』『コオロギの結婚』ハンガリー ドゥナントゥール地方の民謡

出典 Táncházi muzsika Music in Folk Dancing Rooms(1976)より『Dunántúli táncok 2』

HUNGAROTON RECORDS LTD 演奏 Sebő Ensemble

この2曲はハンガリーの代表的な舞踊「ウグローシュ」である。牧夫の踊りであり、テンポが速く、軽快に跳ねて踊る。「ウグローシュ」はハンガリーの五音音階を中心とした旋律で、曲の途中で5度下に転調することが多い。旋律は8分音符と4分音符を組み合わせたリズムでできており、反復がある。伴奏は裏拍で刻まれる。『豚飼いが丘で』4分の2拍子 16小節。下行して上行する動きの旋律。『コオロギの結婚』4分の2拍子 16小節。下行した後、あまり高さが変わらない旋律。

『豚飼いが丘で』



使用する音源は男性と女性による歌と弦楽器で演奏され、足を打つ音、足踏みの音、掛け声が入り、民族舞踊の臨場感が伝わってくる。

### ●音楽づくり『ハンガリーのリズムと音階による旋律づくり』

第1時で親しんだハンガリー民謡に用いられているリズムパターンと音階を使って旋律をつくり、友達の旋律とつなげてハンガリー風の踊りの音楽をつくる。音の上がり下がりを見視化する Google スプレッドシート（以下、スプレッドシート）を使って旋律の動きを試行錯誤し、反復の仕方を工夫することで、まとまりのある音楽をつくる。

【旋律づくりのルール】

- ・4分の4拍子 2小節（8拍）の旋律をつくる。 ・旋律のリズム 
- ＊鑑賞で扱う民謡の踊りのステップは2拍子だが、児童が既習の旋律づくりで慣れて負担感がなく、旋律の構造や繰り返しを捉えやすい4拍子とする。
- ・使う音 レミファソラシドレ。旋律の始めと終わりの音はレまたはラとする。
- ・使用する楽器 ミニキーボード（音色 クラリネット）
- ・個人の旋律を4人でつなげ、誰かの旋律を反復して10小節または12小節の音楽をつくる。

### ●ハンガリーの踊りの音楽「ヴェルブク」「カリカーゾー」「チャールダーシュ」

ハンガリーの民族舞踊の中でもリズム、速度、旋律など音楽の特徴を感じ取りやすく、踊り方の違いが分かりやすいものを比較して視聴し、それぞれの曲や演奏のよさ、踊りの面白さを味わう。

○サトマール地方のヴェルブク…速いテンポの音楽に合わせて踊る男性の踊り。元は徴兵舞踊で太ももや脛、靴を打つ足技が勇ましい。

○シャルクズ地方のカリカーゾー…女性たちが輪になって手をつなぎ、アカペラで歌いながら優雅に踊る。結婚式や収穫祭など村の共同体のイベントで踊られる。遅い速度から徐々に速くなる。

○カロチャ地方のフリッシュ（速い）チャールダーシュ…男女で手を取り合って回転する動きが中心の踊り。細かく軽快に跳ねる動きが多く、音楽も踊りも明るく華やかである。

## 4 研究主題に迫るための手立て

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現

#### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

- ・ハンガリー民謡を聴いたり歌ったり踊ったりして気付いた特徴を基に音楽をつくり、さらに踊りの音楽を比較鑑賞する学習過程を工夫することで、児童が興味・関心を深めながら、見通しをもって次の学びへ向かえるようにする。
- ・ハンガリー民謡の中で旋律のリズムや音の動き、反復などの特徴を捉えやすい歌を選択し、音楽づくりに結び付けられるようにする。また、速度などの音楽の特徴や踊りの種類の違いを捉えやすい音源や映像を選択し、曲や演奏のよさを比較しながら味わえるようにする。
- ・題材の学習を集積するブック型ワークシートを作成し、学習の見通しをもち、振り返りを次の学習に生かすようにする。ワークシートに各時間の振り返りの視点を掲載し、学習状況に応じ、個別に言葉掛けをする。

#### ○個別最適な学びを実現する工夫

- ・第二次の旋律づくりの導入では、使う音を限定して少しずつ音を増やすなど、段階的に音楽づくりのルールを示すことで、どの児童も安心して音を選んで旋律をつくることのできるようにする。
- ・スプレッドシートを使って個人の旋律をつくることで、旋律の音の上がり下がり意識しながら試行錯誤できるようにする。スプレッドシートは1オクターブの音階、1オクターブの中の高音域、低音域から選択できるようにする。また、進度が速い児童のために複数のシートを用意することで、自分のペースで学習を進められるようにする。
- ・個人の旋律をつくる場面からグループの4人が近くで活動するようにし、一人で考えてつくる、友達と相談しながらつくる等、学習の進め方を選択できるようにする。



### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

#### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

- ・旋律線を記入した色別シートを使ってグループの旋律の構成を考えることで、旋律の動きや反復を意識して、友達と対話しながらグループの旋律をつくることのできるようにする。
- ・グループでつくった旋律を聴き合う場面、友達の音楽に合わせて手拍子や踊りで盛り上げる場面を分けて設定し、互いの違いやよさを認め合いながら、踊りの音楽を楽しめるようにする。
- ・第三次の鑑賞では、自分が興味をもった踊りの音楽のグループに分かれて意見交流しながら、さらに聴き深めて、曲や演奏のよさを見いだすようにする。

#### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

- ・第一次でハンガリー民謡を聴いたり歌ったりする場面で、児童が音楽の特徴に気付くような発問や追発問を工夫する。
- ・個人の旋律づくりの場面では旋律の音の上がり下がりによる曲想を意識しながらつくるように言葉掛けをする。グループの旋律づくりの場面では、第一次で学習した民謡を振り返り、反復による音楽のまとまりを意識してつくるようにする。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

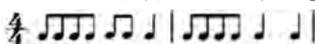
- ・紹介動画「ハンガリーってどんな国?」「ハンガリーの音楽と踊り」を作成し、専門家との交流への期待を高める。ハンガリー民謡音楽家やハンガリー大使館との交流授業を通し、ハンガリーの文化や民謡への興味・関心を高め、題材の学習につなぐとともに、日本を含む世界の国々の生活の中に音楽が深く関わっていることに気付くようにする。
- ・ハンガリー大使館との交流や本題材の学習の成果をまとめて、学習発表会で発表する。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 曲想及びその変化と、リズム、速度、反復などの音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑)</p> <p>②知 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。(づ)</p> <p>③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、反復など音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。(づ)</p>	<p>①旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(づ)</p> <p>②速度、旋律、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)</p>	<p>①ハンガリーの民謡を聴いたり、踊りの音楽をつくったりする音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(づ・鑑)</p>

## 6 題材の指導計画と評価計画

6 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態	
<p>&lt;第一次のねらい&gt; ハンガリー民謡のリズム、速度、旋律、反復などの特徴を感じ取る。</p>						
1	<p>○ハンガリー民謡を聴いたり歌ったりして、ハンガリーのリズム、速度、旋律、反復などの特徴を感じ取る。</p> <p>・『豚飼いが丘で』を聴き、どんな時に流れる音楽か、考える。</p> <p><b>【予想される児童の発言】</b>  「おどっているんじゃないかな。祭りみたい」  「バイオリンで演奏している。足ぶみの音がきこえる」  「男の人が歌ってる。日本語じゃない」</p> <p>・「ウグロージュ」の動画を視聴し、踊りの音楽であることに気付く。</p> <p>・『豚飼いが丘で』や『コオロギの結婚』の旋律を階名唱したり手拍子で旋律のリズムを打ったりする。</p> <p></p> <p>・『豚飼いが丘で』に合わせてステップを踏む。</p> <p>・速度を変えた『コオロギの結婚』に合わせて踊る。</p> <p>・『豚飼いが丘で』『コオロギの結婚』を続けて聴き、音楽の特徴について気付いたことや感じたことをワークシートに記入したり発言したりする。</p>	<p>T「どんな時に流れている音楽かな。想像しながら聴きましょう」</p> <p>◇ハンガリー民謡の魅力や特徴をより感じ取れるよう、聴く部分を徐々に増やしていく。その際、追発問しながら、リズムや速度、反復などの特徴を感じ取れるようにする。 <b>&lt;視点2&gt;</b></p> <p>◇ハンガリー大使館との交流を想起できるように言葉掛けをする。 <b>&lt;視点3&gt;</b></p> <p>◇2曲の楽譜を上下に並べて提示し、手で旋律線をなぞったり手拍子を打ったりして、リズムが共通していることに気付くようにする。</p> <p>◇基本のステップをスライドで提示して動きを捉えやすくする。</p> <p>◇速度を変えた音源で踊ることで、踊りに合う速度に気付くようにする。</p> <p>◇リズムや速度、反復などに着目して聴くように言葉掛けをする。</p>				① 知 発言・



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで旋律をつくる。(2回め)</li> <li>・つくった旋律の発表を聴き、旋律のつなげ方や反復の仕方の工夫のよさについて意見交流する。</li> <li>・本時の学習を振り返る。</li> <li>・代表グループがつくった音楽に合わせて踊る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇まとまりを感じ取りやすい反復をしているグループを取り上げる。</li> <li>◇旋律のつなげ方や反復の仕方で工夫したことや他のグループの工夫から学んだことについて振り返る。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇音楽に合わせて踊ることで、次時の学習の見通しをもつようにする。</li> </ul>		発言 ・ 演奏 聴取 ・ 記述	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○反復などの音楽の仕組みを使ってハンガリー風の踊りの音楽をつくり、演奏して楽しむ。</li> <li>・つくった旋律をグループでつなげて演奏したり、各グループの旋律を聴き合ったりする。</li> <li>1回めのグループ発表(聴き合う)</li> <li>2回めのグループ発表(手拍子や踊りを入れる)</li> <li>・本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇グループの音楽の間に民謡を歌ったり、他のグループの発表時に第1時に体験した手拍子や踊りを入れたりして、踊りの音楽を楽しめるようにする。</li> <li>◇異なる速度の自動伴奏を用意し、演奏する速度を選ぶことができるようにする。</li> <li>◇音楽づくりを通して分かったこと、友達から学んだことを振り返る。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>〈視点1〉</b></p>	③	<b>技</b> 演奏 聴取	
<p><b>＜第三次のねらい＞ ハンガリーの踊りの音楽を聴き比べ、それぞれの特徴と曲想の関わりを理解し、曲のよさを味わう。</b></p>					
5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンガリーの踊りの音楽を聴き比べ、それぞれの特徴を感じ取り、曲のよさを味わう。</li> <li>・ハンガリーの踊りの音楽「ヴェルブク」「カリカーゾー」「チャールダーシュ」を聴き比べる。</li> <li>・自分が興味をもった踊りのグループに分かれて再度、視聴する。</li> <li>・ハンガリーの踊りと音楽の紹介文を書く。</li> <li>・題材の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ハンガリーの踊りの音楽の中で、リズムや速度など音楽的な特徴を感じ取りやすいものを取り上げる。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇音楽の始めの部分を音だけで聴き、どんな踊りか想像してから動画を視聴するようにする。</li> <li>◇それぞれの踊りの音楽を比較しながら聴くために、音楽の特徴を選択できるワークシートを使用する。</li> <li>◇踊りごとに聴くコーナーを分けて、グループで意見交流しながら視聴できるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇リズムや速度などの音楽の特徴と踊りを関わらせながら、紹介文を記入するように伝える。</li> <li>◇ハンガリーの踊りの音楽について考えたこと、これからの学びに生かしたいことを振り返る。 <b>〈視点3〉</b></li> </ul>		① 行動 観察 ・ 表情 観察 ・ 記述 ② 発言 ・ 記述	

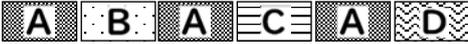
7 本時の展開

3 時間目

(1) 本時のねらい

旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準
<p>○反復を使って旋律をつなげ、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に音の上がり下がり意識して旋律をつかったことを振り返る。</li> <li>・第1時で学習した「ウグロージュ」を聴いたり踊ったりして、音楽の特徴を振り返る。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の児童の振り返りの言葉を取り上げたり、児童がつくった旋律の例をスライドで提示したりする。</li> <li>◇楽譜を提示し、反復があることを確かめる。</li> <li>◇児童が学習の見通しをもてるように、本時のスケジュールと視覚支援時計を提示する。</li> </ul>
<p><b>せんりつをつなげたり、くり返したりしてグループの音楽をつくろう</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの旋律づくりのルールを知る。</li> </ul> <div data-bbox="165 1093 780 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【グループの旋律づくりのルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の旋律（2小節）を4人でつなげ、誰か（一人または2人）の旋律を反復して10小節または12小節の音楽にする。</li> <li>・旋律のつなげ方（どの旋律をどこで反復するか）を考える。</li> </ul> </div> <div data-bbox="165 1352 780 1503" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T「繰り返す場所を変えると、どんな感じがしますか」                  C「はじめと終わりの旋律が同じだと、ホッとします」                  C「同じ旋律が何回も出てくると、心に残って歌いたくなります」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで旋律をつくる。（1回目 5分）</li> <li>・つくった旋律を聴き、旋律のつなげ方や反復の仕方の工夫について全体で考える。</li> </ul> <div data-bbox="165 1845 780 2018" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T「誰の旋律を繰り返すことにしましたか。どうしてその旋律にしたのですか」                  C「始めは高い音を使っているAさんの旋律にし、終わりの方でだんだん下がっていくBさんの旋律をくり返して落ち着くようにしました」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇児童がつくった旋律を例にして、反復を使ってまとまりのある旋律をつくることを伝える。</li> </ul> <p>〈10小節の例〉 </p> <p>〈12小節の例〉 </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇反復することのよさを考えてから、グループ活動に入るようにする。</li> <li>◇グループで旋律をつなげるときは旋律線を記入した色別シート（橙・黄・青・黄緑）を使用し、旋律の動きと反復の仕方を考え、友達と対話しながらつくることのできるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈視点2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇グループのシートの写真を投影し、教師が児童のつくった旋律を演奏することで、旋律のつなげ方と反復の仕方の工夫に気付くようにする。</li> <li>◇旋律の音の上がり下がりによる曲想や反復による音楽のまとまりを意識してつくるように伝える。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈視点2〉</p>

- ・グループで旋律をつくる。(2回目 15分)

**【活動方法】**

- ・つなげ方を試す。
- ・伴奏に合わせてみる。
- ・全体のまとまりを考えてつくる。

- ・各グループの旋律のつなげ方を見合う。
- ・旋律のつなげ方や反復の仕方の工夫のよさについて意見交流する。

T「旋律のつなげ方や繰り返し方で気付いたことや感じたことはありますか」  
 C「**D**の旋律は低い音を使っていて終わった感じがするので、もう一度くり返しているのかなと思いました」  
 C「変化のある**C** **D**の旋律をくり返していたので耳に残りました」

- ・本時の学習を振り返る。
- ・代表グループがつくった音楽に合わせて踊る。

◇シートを並べたらキーボードで演奏して、音で確かめるようにする。

◇技能面でつまずきのあるグループには教師と一緒に演奏するなどして、つくった旋律を確かめられるようにする。

◇旋律をつなげることができたグループが自動伴奏(低音レ・ラ)に合わせて演奏する場をつくる。

◇各グループのシートの写真を投影し、様々な反復の仕方があることに気付くようにする。

◇まとまりを感じ取りやすい反復をしているグループを取り上げる。

〈10小節の例〉 

〈12小節の例〉



◇旋律のつなげ方や反復の仕方で工夫したことや他のグループの工夫から学んだことについて振り返る。

**〈視点1〉**

◇音楽に合わせて踊ることで、次時の学習の見通しをもつようにする。

◆旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。思・判・表① 行動観察・発言内容・演奏聴取・ワークシートの記述内容

**〈 A と判断される児童の状況 〉**

- ・全体の流れを意識しながら、旋律の音域や音の上がり下がりに着目して、つなげる順番や反復を工夫したり、自分の考えを友達に伝えたり、ワークシートに記入したりしている。

**〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉**

- ・旋律のつなげ方や反復の仕方についての友達の意見を参考にして、どのようにつくるかについて自分なりの考えをもち、伝えられるように支援する。

**助言者の言葉**

本提案には、地域の特性を最大限に生かした学び方や子どもの主体性を引き出すための様々な手立てが随所に散りばめられています。音楽づくりでは、「まずは一人でつくること」にこだわりながら学びを進めてきました。「一人でつくること」は、個別最適な学びの向かうための手立てとも言えます。本時では、「子どもがどのように順番や反復を決めていくのか」や本題材・本時らしい振り返りの姿にも注目しながら参観したいと思います。

筑波大学附属小学校 教諭 平野 次郎

# 新宿区の実践

新教研音楽部 部長 落合第五小学校 野沢 祥子



## 1 新宿区の実践の概要

本区では『ソーラン節』の鑑賞と器楽を関連付けた題材を設定した。より一層日本の音楽に親しむことができるよう、日本の楽器のみを扱う合奏に取り組む。本題材から次年度参加する地域のお祭り「神楽坂阿波踊り」へ思いをつなげ、日本の音楽に親しむことを目指して研究を進めてきた。

## 2 研究の視点について

### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

民謡『ソーラン節』の鑑賞を通して曲の魅力を感じ取り、その先にある歌と日本の楽器を合わせた演奏への憧れをもつことができるようにした。鑑賞から表現まで『ソーラン節』を教材として扱うことで、見通しをもって取り組めるようにした。また、毎時間の終末には付箋を活用し、思いや発見を書き溜め、児童が視覚的にも学びを振り返るとともに、次時のめあてにつなげられるようにした。『ソーラン節』を演奏するにあたっては、歌の他に篠笛、太鼓、当り鉦を体験した上で、児童自らが演奏したいパートを選択できるようにした。技能を身に付ける場面では、児童の言葉で改善点を見付けられるよう言葉掛けをし、課題意識をもって練習に取り組めるよう板書したり、口唱歌のリズム譜に書き込んだりして、活動のめあてを明確に提示した。

### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

毎時間の授業の中で、児童の思考に「！」(驚き、発見、感動)、「？」(疑問、もっと知りたい)が浮かぶような発問を工夫し、深い学びにつなげられるようにした。「どんなことに気を付けて演奏したいの?」「なぜそう思うの?」等、児童の考えを引き出し、児童の思考がさらに深まるようにした。

合奏に向けては同じ楽器を選んだ児童で集まり、互いに表現を高め合えるような場を設定した。さらに、「歌」と「伴奏」と「かけ声」を「合わせて」演奏するための工夫に児童同士が気付けるよう、「聴き手」グループの聴く視点を明確に示し、その意見を基に音で試しながら改善につなげられるようにした。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

児童の気付きや思い・発見から次時のめあてを考え、児童が自ら課題解決していくような指導を展開した。篠笛の指導については、地域の人材をゲストティーチャーとして迎えた。本題材の最後に『阿波踊り』を鑑賞し、地域に根付いた日本の音楽の魅力に気付き、次年度に自分たちが参加する地域のお祭りに意欲・関心をつなげられるように題材を組み立ててきた。

## 3 事前授業を通して

最初は児童に馴染みのあるリコーダーを取り入れた合奏を検討していたが、日本の音楽の特徴を「楽器・声・旋律・仕組み等」「文化・伝統」「行事」「生活」など様々な観点から見直し、今回の指導計画とした。児童の振り返りから次時のめあてを設定することで、学習のつながりを実感しながら主体的に取り組むことができるようになった。本題材に限らず、系統的な学習の指導計画や教師の適切な発問や声掛け等、児童が主体的に音楽の喜びを感じ続けることができる指導について、今後も研究を続けていく。

#### 4 大会授業の取組の実際

##### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

～見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫・個別最適な学びを実現する工夫～



児童が自分で選択したパートを練習する  
⇒個別最適な学び

「大太鼓やってみたいな！」  
「私は歌で盛り上げるよ！」  
「口唱歌のリズムで練習しよう！」



付箋を活用した振り返り  
⇒学びの広がりや深まりを自覚できる  
「次の時間にはもっと太鼓のリズムができるようになりたい！」  
『ソーラン節』をみんなで演奏できたら  
楽しいな！」

##### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

～考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動・音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ～



児童の思考に「!」「?」が浮かぶ発問の工夫⇒深い学びにつなげていく

「どうしたら合わせられるかな？」  
「みんなで合わせるのは楽しいな！」



聴き合ったり、話し合ったりしながら表現の工夫をする⇒対話を通しての学び

「合うようになってきたね」  
「拍を感じて演奏するといいね」

##### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現



地域に根付いた日本の音楽の魅力に気付く  
⇒学びの連続性・発展性

「お祭りに参加できるのは楽しいな！」  
「来年は何の楽器で参加しようかな？」  
「地域の人と一緒に演奏できるのは楽しみだな！」

## ◆第4学年 学習指導案◆「日本の音楽に親しもう」

教材 『ソーラン節』  
『阿波おどり』

新宿区立江戸川小学校  
指導者 白鳥 あみ 教諭

### 1 題材の目標

- (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて気付くとともに、互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
- (2) 旋律や音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、日本の民謡の曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 日本の民謡の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、生活の中から生まれた多様な音楽に親しむ。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態

第2学年より受けもっている。第3学年「日本の音楽」の学習では、『うさぎ』で呼びかけとこたえのつくりを生かして歌ったり、『十五夜さんのもちつき』で友達と手合わせしながら歌ったりして、「日本の音楽」に親しむことができた。また、世界の子供たちの遊び歌と比較することで、様々な音楽の特徴をつかみ、拍にのって友達と声を合わせながら歌うことができた。第4学年では、『さくら さくら』を学習し、五音音階が日本の音楽らしい雰囲気をつくり出していることに気付くことができた。2学期には箏で『さくら さくら』を演奏し、日本の楽器に興味をもち、本題材では和太鼓や鉦などの日本の楽器に取り組む。それぞれの楽器の特徴や音色のよさを実感しながら『ソーラン節』を合奏することで、さらに日本の音楽に親しみをもてるようにする。

##### ②題材の意義

本題材では、鑑賞から表現まで『ソーラン節』を教材として扱うことで、見通しをもって取り組めるように構成する。『ソーラン節』の鑑賞から、使われている楽器や音頭一同形式であることなどに気付くようにする。また、民謡の力強い歌声の特徴について実感を伴ってつかみ、「さらに『ソーラン節』をもりあげて演奏しよう」という題材のゴールに向けて、日本の楽器を取り入れた合奏へとつなげる。様々な日本の楽器の演奏体験を通してそれぞれの楽器の特徴や音色のよさを実感し、『ソーラン節』らしさ(特徴)を表現するために試行錯誤しながら、日本の音楽のよさや日本の楽器を演奏する楽しさを存分に味わえるようにしたい。題材の終末では、『阿波おどり』の鑑賞から、来年度、地域のお祭り「神楽坂阿波踊り大会」にお囃子演奏で参加することへ学びをつなげ、学びのつながりや広がりを実感できるようにしたい。

#### (2) 学習指導要領との関連

【A表現】(2) 器楽ア・イ(イ)・ウ(イ)(ウ)

【B鑑賞】ア・イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア(ア)音色、リズム、旋律、拍 (イ)呼びかけとこたえ

### 3 教材について

#### ●『ソーラン節』

出典：小学音楽4 音楽のおくりもの 教育出版社 CD番号 DCT-3545/6

明治時代から受け継がれてきた日本民謡の一つで、北海道日本海沿岸地方、特にニシン漁の盛んであった江差地方で起こり、早春のニシン漁のときに歌われてきた。建て網に集まったニシンを杵網に移し、長柄の「タモ」で船にすくいあげるときに歌われる。「ソーラン」というのはその「囃し言葉」である。特徴は民謡音階で、2/4拍子。力強い2拍子のリズムが漁師たちの仕事のリズムと一致している。教材としては民謡独特の発声に気付き、それを表現に生かしながら、リズムにのって景気よく歌えるようにする。また、合いの手で入る「ハイハイ」「ハードッコイショ」などの掛け声は、日本の音楽独特のものであり、音楽の大切な要素であるため、力強くリズムカルに表現できるようにしたい。

これらのことから、ソーラン節を教材として扱うことにより、日本の音楽に親しみやすくなるものと考えた。また伴奏パートの楽器については、児童の実態を考慮しながら新宿区音楽部が編曲した。

#### ●『阿波おどり』

出典：小学音楽4 音楽のおくりもの 教育出版社 CD番号 DCT-3545/6

阿波おどりの起源は、蜂須賀家政が1586年に徳島入りし、徳島城を落成した折に祝賀行事として城下の人たちが踊ったという築城説や盆踊りが派生したという盆踊り説などがあるが、一段と盛んになったのは藍や塩で富を蓄積した商人たちの財政援助によるといわれている。

踊りを盛り上げるものには鉦、大太鼓、締太鼓、三味線、笛という鳴り物と、「よしこの」といわれる七・七・五調の囃子唄がある。「よしこの」の代表的なものが「踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らな損損」である。

『阿波おどり』の原曲を鑑賞し、「神楽坂阿波踊り大会」のお囃子と比較することで、さらに興味・関心を深め、地域の一員としての自覚をもち、その喜びを共有できると考えた。

### 4 研究主題に迫るための手立て

#### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現

##### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

- ・民謡『ソーラン節』を鑑賞し曲の魅力を感じ取り、その先にある歌と日本の楽器を合わせた演奏への憧れをもつことができるようにする。鑑賞から表現まで『ソーラン節』を教材として扱うことで、見通しをもって取り組めるようにする。
- ・毎時間の終末には付箋を活用し、思いや発見を書き溜め、児童が視覚的に学びを振り返るとともに次時のめあてにつなげられるようにする。

##### ○個別最適な学びを実現する工夫

- ・『ソーラン節』を演奏するにあたり、歌の他に篠笛、大太鼓、締太鼓、当り鉦を体験した上で、児童自らが演奏したいパートを選択できるようにする。
- ・技能を身に付ける場面では、児童が改善点を見付けられるように教師が意図的に児童の発言を取り上げ、その課題意識をもって練習に取り組めるよう板書したり、口唱歌のリズム譜に書き込んだりして、明確に提示する。

#### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

##### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

- ・初めて楽器と歌を合わせる場面では、聴き手の児童の気付きから、歌と掛け声・伴奏を合わせるための工夫につなげられるような活動の場を設定する。

- ・児童が自信をもって演奏できるパートを自分で選択し、同じパートの中で声を掛け合いながら練習する場を設ける。

### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

- ・児童同士の対話に耳を傾け、児童の意欲をかき立てるような言葉掛けをする。児童の思考に「！」（驚き、発見、感動）や、「？」（疑問、もっと知りたい）が浮かぶような発問を工夫し、深い学びにつなげられるようにする。
- ・「どんな風に演奏したいの？」「なぜそう思うの？」等、児童の考えを引き出し、児童の思考がさらに深まる発問をする。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

- ・篠笛の指導については、地域の人材「なにがし連」をゲストティーチャーとして迎える。実際のお祭りで演奏している方の音を聴き、普段触れる機会が少ない篠笛に憧れをもち、地域に根付く文化を体験できるようにする。
- ・本題材の最後に『阿波おどり』を鑑賞し、地域に根付いた日本の音楽の魅力に気付き、次年度に自分たちが参加する地域のお祭りに意欲・関心をつなげられるように題材を組み立てていく。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>知</b> 曲想と民謡独特の声色、使われている楽器の音色やリズム、音頭一同形式との関わりに気付いている。(鑑) ② <b>知</b> 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。(器) ③ <b>技</b> 音色や響きに気を付けて、打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。(器) ④ <b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音を聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器)	① 曲や演奏のよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いている。(鑑) ② 互いの楽器の音色、リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように音を合わせて演奏するかについて思いや意図を持っている。(器)	① 日本の民謡に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的に学習活動に取り組もうとしている。(鑑・器)

## 6 題材の指導計画と評価計画

6時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T 「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
＜第一次のねらい＞ 日本の音楽や楽器に興味をもち、それらの特徴を生かして表現する。					
1	○ 『ソーラン節』を聴き、独特な歌い方や呼びかけとこたえなどの音楽の特徴に気付く。 ・ 聞き覚えのある言葉や、気になる言葉に着目しながら『ソーラン節』を鑑賞する。	◇ 児童が聴き取った歌詞や気付いたこと、感じたことを分けて板書する。			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け声に着目して『ソーラン節』を鑑賞する。</li> <li>・音頭一同形式であることを確認する。</li> <li>・どんな歌声であったか声で試し、教師の範唱に合わせて歌う。</li> <li>・ニシン漁のときに歌われる仕事歌であることを知り、手拍子をしたりタモをすくいあげる動きをしたりしながら、もう一度鑑賞する。</li> <li>・『ソーラン節』で日本の楽器が使われていることを共有する。</li> <li>・学習を振り返り、分かったこと、気付いたこと、もっと知りたいことなどを付箋にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇一人で歌っている場所と大人数で歌っている場所があることに気付けるよう、掛け声に合わせて立つように言葉掛けをする。</li> <li>◇一緒に掛け声をしてよいと伝える。 T「歌は何人で歌っていましたか？」 T「いつもみんなが合唱するときの歌声と違いはありますか？」</li> <li>◇児童の発言を基に声の出し方を全体で試し、歌声の特徴を共有できるようにする。 <b>〈視点2〉</b></li> <li>◇「歌」の部分を教師が歌い、「かけ声」を児童全員で言ったり、役割を交代したりしながら、何度も繰り返し歌えるようにする。</li> <li>◇力強くタモをすくいあげる様子を想起させ、2分音符を一拍と捉えた手拍子を促す。</li> <li>◇ここまでに児童から楽器についての発言があった場合は、それを想起できるよう言葉掛けをし、無かった場合は、「歌のみであったか」と問い掛け、日本の楽器に着目できるようにする。</li> <li>◇児童が日本の楽器を入れて演奏したいという思いを引き出す言葉掛けをする。</li> <li>◇日本の楽器を取り入れた合奏をするという題材のゴールを共有する。 <b>〈視点1〉</b></li> </ul>	<p>① <b>知</b> 発言内容・行動観察・記述</p> <p>① 発言内容・行動観察・記述</p>	
<p>2 ○篠笛の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、『ソーラン節』に日本の楽器を取り入れて合奏するという題材のゴールについて想起する。</li> <li>・来年度地域のお祭り「神楽坂阿波踊り大会」でお囃子を担当することを確認し、篠笛の担当が必要なことを知る。</li> <li>・地域の「なにがし連」の篠笛奏者の方に篠笛の演奏の仕方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の『ソーラン節』の鑑賞で、どんな楽器が使われていたか想起できるよう言葉掛けし、笛が使われていたことを共有できるようにする。</li> <li>◇音を出すことが難しい児童には、個に応じた支援を行う。</li> <li>◇篠笛の音を安定して吹けるようになった児童には、発展として前奏部分の演奏ができるよう課題を用意し、個々の</li> </ul>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の1フレーズだけ、『ソーラン節』に合わせて演奏してみる。</li> <li>学習を振り返り、生演奏を聴いたり、実際に演奏したりすることで、気付いたこと、感じたことや難しかったことを付箋にまとめる。</li> </ul>	<p>実態に合わせて練習できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">〈視点1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇クラスの半数ずつで歌と篠笛に分け、合わせて演奏するよう促す。</li> <li>◇児童の様子を見ながら、慣れてきたら拍に合わせてやすいよう、締太鼓を打つ。</li> <li>◇篠笛の音色の特徴やよさを記述しているものや、次時のめあてにつながる意見を取り上げ電子黒板に投影し、クラス全体で共有できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈視点1・3〉</p>	<p>②</p> <p>知</p> <p>発言内容・行動観察</p>
<p>&lt;第二次のねらい&gt; 旋律やリズムが生み出すよさや、合わせる面白さを感じ取って表現する。</p>		
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大太鼓、締太鼓、当たり鉦の演奏の仕方を知り、それぞれのパートを演奏する。</li> <li>・『ソーラン節』を歌と篠笛で演奏し、前時を振り返る。</li> <li>・伴奏楽器のリズムを知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大太鼓 (前奏) (ドン) (ドン) (ドン) (カカ)</p> <p style="padding-left: 40px;">(ト) (ドン) (コ) (ドン) ウン</p> <p>(中) (ドン) (ドン) (ドン) ウン</p> <p>締太鼓 (トン) (トコ) (トン) (トコ)</p> <p>当たり鉦 (チン) (チキ) (チン) (チキ)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を演奏している模倣をしながら、リズムを口唱歌で唱える。</li> <li>・グループに分かれ、大太鼓、締太鼓、当たり鉦をローテーションしながら演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇クラスを歌グループと篠笛グループの2グループに分け、歌グループの中から歌い手役を募り、合わせて演奏するよう促す。</li> <li>◇児童が拍を感じ取りやすいよう締太鼓を打ち、さらに児童が「演奏してみたい!」と思うような言葉掛けをする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈視点2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大太鼓・締太鼓・当たり鉦を紹介し、それぞれのリズムを視覚的に捉えられるようなリズム譜を用意する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈視点1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇日本の楽器は、口唱歌を通して受け継がれることを伝える。</li> <li>◇各楽器の練習場所に、口唱歌が書かれたリズム譜を用意する。</li> <li>◇楽器を演奏しないときは、口唱歌で唱えたり、歌や掛け声を合わせたりしてよいことを伝える。時間内に全員がそれぞれの楽器を演奏できるようにローテーションするよう促す。</li> </ul>	<p>③</p> <p>技</p> <p>演奏聴取</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、気付いたことや疑問に思ったこと等を付箋にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇次時のめあてにつながる意見を取り上げ電子黒板に投影し、クラス全体で共有できるようにする。 &lt;視点1&gt;</li> </ul>			
<p>4 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌と楽器を合わせ、『ソーラン節』をよりよい演奏にするための工夫について思いや意図をもつ。</li> <li>・前時を振り返り、伴奏の打楽器のリズムを復習する。</li> <li>・4つのグループに分かれ、ローテーションしながら、①～④を体験する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「歌」グループ</li> <li>②「かけ声」グループ</li> <li>③「伴奏（篠笛・大太鼓・締太鼓・当り鉦）」グループ</li> <li>④「聴き手」グループ</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴き手」グループの感想を聞き、気持ちを音で試しながら共有する。</li> <li>・学習を振り返り、気付いたことや疑問に思ったこと等を付箋にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇リズム譜を掲示し、教師の演奏に合わせて、演奏する動きをつけながら口唱歌で唱えるよう促す。</li> <li>◇「伴奏」グループの楽器は、繰り返し演奏する度交代してよいことを伝え、どの児童もいろいろな楽器を担当できることを確認する。</li> <li>◇「聴き手」グループの聴く視点を板書し、拍に合っていたか、互いに聴き合っているか演奏の後に意見を発表するよう言葉掛けをする。</li> <li>◇「聴き手」グループからの意見を音で試す活動を取り入れ、実感を伴って共有できるようにする。 &lt;視点2&gt;</li> <li>◇次時のめあてにつながる意見を取り上げ電子黒板に投影し、クラス全体で共有できるようにする。 &lt;視点1&gt;</li> </ul>		<p>② 発 言 内 容 ・ 行 動 観 察 ・ 演 奏 聴 取 ・ 記 述</p>	
<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『ソーラン節』を、拍に合わせながら、互いに聴き合って演奏する。</li> <li>・前時を振り返り、リズムを口唱歌で唱えたり、力強い歌声や掛け声で歌ったりする。</li> <li>・歌、掛け声、篠笛、大太鼓、締太鼓、当り鉦の中から希望する楽器を選び、同じグループで確認しながら練習し、続いて少人数で合わせる練習をする。</li> <li>・『ソーラン節』の背景を想起し、拍を合わせることの大切さや、クラス全員で演奏するために気を付けることを確認する。</li> <li>・全体で合わせて演奏する。</li> <li>・学習を振り返り、気付いたことや分かったことなどを付箋にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇リズム譜を掲示し、代表児童を募って1フレーズ合わせるよう促す。</li> <li>◇児童が音を合わせやすいような拍打ちをする。</li> <li>◇数に限りのある楽器に希望者が多く集まった場合は、待っている児童が口唱歌でリズムを唱え、交替で演奏するよう促す。 &lt;視点1&gt;</li> <li>◇みんなで揃えて演奏するためには、どのようなことに気を付ければよいか考えるよう促す。 &lt;視点2&gt;</li> <li>◇楽器の順番を待っている児童は「かけ声」と「聴き手」を担当するよう促す。</li> <li>◇本時のまとめにつながる意見を取り上げ電子黒板に投影し、クラス全体で共有できるようにする。 &lt;視点1・3&gt;</li> </ul>	<p>④ 技 演 奏 聴 取</p>		

<第三次のねらい> 日本の音楽の魅力を感じ取り、地域に根付いた音楽に愛着をもつ。

<p>6</p>	<p>○『阿波おどり』を鑑賞し、次年度参加する「神楽坂阿波踊り大会」に憧れをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までを振り返る。</li> <li>・教科書の民謡の写真から、徳島県の『阿波おどり』に気付く。</li> <li>・『阿波おどり』を鑑賞する。</li> </ul> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使われている楽器が『ソーラン節』とほとんどいっしょだった。</li> <li>・『ソーラン節』のように歌い手が一人で歌うところはなかった。</li> <li>・『ソーラン節』の力強い感じに比べて、『阿波おどり』は楽しくはずむ感じがする。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材で学んだことを振り返り、来年度のお囃子演奏に生かすこと等をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>◇前時の児童の振り返りを有し、本時のねらいにつなげられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">&lt;視点1&gt;</p> <p>◇演奏に使っていた楽器を想起するよう助言する。</p> <p>◇『ソーラン節』が北海道の民謡ということを改めて確認し、自分たちが住んでいる地域にまつわる民謡について考えられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">&lt;視点2&gt;</p> <p>◇使われている楽器など、児童が曲を聴いて気付いたことや感じたことを分けて板書する。</p> <p>◇踊りを知っている児童を募り、楽しく動きながら聴くよう促す。</p> <p>◇次年度、自分たちが演奏や踊りで地域の「神楽坂阿波踊り大会」に参加することを伝え、この学習で学んだ「日本の音楽らしさ」や「篠笛」の経験を生かせるよう言葉掛けする。</p> <p>◇これまでの付箋や板書を貼り所にするよう助言する。</p> <p style="text-align: right;">&lt;視点3&gt;</p>		<p style="text-align: center;">① 発言内容・行動観察・記述</p>
----------	---	---	--	---

7 本時の展開

4 時間目

(1) 本時のねらい

互いの音を聴き合い、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
<p>○歌と楽器を合わせ、『ソーラン節』をよりよい演奏にするための工夫について思いや意図をもつ。</p> <p>・前時を振り返り、伴奏の打楽器のリズムを復習する。</p>	<p>◇リズム譜を掲示し、教師の手拍子に合わせて、演奏する動きをつけながら口唱歌で唱えるよう促す。</p>
<p><b>『ソーラン節』をみんなで合わせてえんそうしよう</b></p>	
<p>・4つのグループに分かれ、ローテーションしながら、①～④を何度か体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①「歌」グループ ②「かけ声」グループ ③「伴奏（篠笛・大太鼓・締太鼓・当り鉦）」グループ ④「聴き手」グループ</p> </div> <p>・「聴き手」グループの感想を聞き、気づきを音で試しながら共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【予想される児童の発言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大太鼓の音に合わせてながら演奏するとよい。</li> <li>・鉦と締太鼓が同じリズムを演奏しているが、互いに聴き合っていてよかった。</li> <li>・かけ声がそろっていてかっこよかった。</li> </ul> </div> <p>・学習を振り返り、気付いたことや疑問に思ったこと等を付箋にまとめる。</p>	<p>◇楽器同士の距離をとり、内側を向いて演奏できるよう配置しておく。</p> <p>◇「伴奏」グループの楽器は、繰り返し演奏する度交代してよいことを伝え、どの児童もいろいろな楽器を担当できることを確認する。</p> <p>◇「聴き手」グループの聴く視点を板書し、拍に合っていたか、互いに聴き合っているか演奏の後に意見を発表するよう言葉掛けをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【互いの表現を聴き合う視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伴奏同士の楽器で、リズムが合っているか。</li> <li>・拍を合わせて演奏しているか。</li> <li>・歌と伴奏が合っているか。</li> <li>・曲の感じを生かした表現をしているか。</li> </ul> </div> <p>◇「聴き手」グループからの意見を音で試す活動を取り入れ、実感を伴って共有できるようにする。 <span style="float: right;">〈視点2〉</span></p> <p>◇次時のめあてにつながる意見を取り上げ電子黒板に投影し、クラス全体で共有できるようにする。 <span style="float: right;">〈視点1〉</span></p>
<p>◆互いの音を聴き合い、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。 <span style="float: right;">思・判・表〈発言内容・行動観察・演奏聴取・記述〉</span></p> <p>〈Aと判断される児童の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のパートと音を聴き合いながら演奏し、みんなで合わせるためにはどのような工夫をするとよいかについて思いや意図をもち、友達に伝えたり友達の考えも取り入れたりしている。</li> </ul> <p>〈Cと判断されそうな状況への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に寄り添って口唱歌を唱えたり、手拍子で拍をとったり、隣に並んで一緒に演奏したりする。</li> </ul>	

助言者の言葉

器楽領域での提案ですが、領域に留まらず「鑑賞」「歌唱」「器楽」の視点から活動させ、最終的に「一つの曲(ソーラン節)を丸ごと楽しむ」という計画が新しいと思います。一つの教材をさまざまな視点から考えて活動していくことは、まさに「音楽的な見方・考え方」を働かせる必要があります、学習の「深まり」につながっていくでしょう。また、「聴き手グループ」の設定は、楽しいながらも学習のポイントでもあると思います。次年度に地域のお祭りへの参加という計画は、「つながり」「広がり」であり、日本の生活や地域と「日本の音楽」との関連を実感する授業になるのではないのでしょうか。

武蔵野大学 非常勤講師 中島 寿

# 台東区 の 取組

授業チーフ 台東区立金竜小学校 上岡 智美



## 1 台東区 の 取組 の 概要

本区では、児童が喜びを感じながら主体的に音楽に関わる姿を目指し、鑑賞領域での研究を進めてきた。鑑賞の授業の中で、児童が『もっと聴きたい、もう一度聴きたい』という思いを抱き、様々な対話を通して音楽のよさに気付いたり自分の思いを伝え合ったりすることのできる力を身に付けさせられるよう、研究を進めている。

今年度は、大会での題材「思いを音楽で表そう」に向けて、様々な手立ての検証をしたり題材構成の工夫を考えたりしてきた。

## 2 研究の視点について

**視点1** 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

**〇見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫**

児童と共に学習課題を設定することで、児童が学びの目的や目標を捉えることができるようにした。年間を通して、つかむ（課題把握・設定）→見通す（学習方法の選択・理解）→探究する→つなぐ・生かすという学習サイクルでの学びを積み重ねることで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。

**〇個別最適な学びを実現する工夫**

聴き深めたい「音楽を形づくっている要素」を選択させたり、一人一台端末とイヤホンスピーカーを活用して繰り返し曲を聴くことができるような場を設定したりすることで、児童が納得感をもって課題に取り組む姿へとつながるようにした。どんなことを聴き取るとよいか、迷った児童へは、

聴き深め方のヒントとなる「聴き方カード」を選択できるようにした。

**視点2** 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

**〇考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動**

聴き深めたい「音楽を形づくっている要素」が同じ児童同士でグループを編成することで、共通の目的意識をもちながら曲を聴くことができ、活発な対話が生まれると考えた。曲の流れを視覚的に捉えられる「タイムバー」を活用することで、曲のどの部分のことを伝えたいのかが明確になり、対話を通して互いの気付きや考えが広がったり深まったりするようにした。

**〇音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ**

学習のねらいに沿った児童への発問や意図的な言葉掛けを工夫した。また、聴き深める視点を具体的な言葉で分類・整理し、「聴き方カード」として提示した。

**視点3** 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

第1学年から第6学年までの鑑賞教材について音楽を形づくっている要素別に系統表を作成し、学びの連続性や発展性を意図した指導計画を立てた。このことにより、児童が既習事項を生かし、学習のつながりを実感しながら題材での学びを自覚できるようにした。地域人材によるバイオリンの出前授業の実施も、学んだことを深める手立てとなると考えた。

## 3 事前授業を通して

研究の視点に沿って検証を進めていく中で、児童と一緒に学習課題を設定したり、意図的な発問を投げかけたりすることは、児童が見通しをもって主体的に学習へ取り組む姿へとつながっていくことが分かった。協働的な学びと個別最適な学びの充実を目指し、学習の場と目的に適した多様な学習形態を指導者が用意し、学習者が主体的に選べるようにしたい。また、鑑賞領域で学んだことを、表現領域やこれからの生活に生かすことができるよう、今後も研究を進めていく。



## ◆第4学年 学習指導案◆ 「思いを音楽で表そう」

教材 『赤いやねの家』  
「ペールギュント」第1組曲から  
『山の魔王の宮殿にて』

台東区立根岸小学校  
指導者 金森 智美 主任教諭

### 1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造、歌詞の内容との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。
- (2) 音色、速度、旋律、強弱、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 曲想を感じ取ることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、曲に対する思いや曲のよさなどを、友達と共有する態度を育てる。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態

今年度より音楽専科が担当している。低学年から学年合同で音楽の学習活動を行う機会を多くもち、たくさんのお考えや表現の仕方に触れられる環境で互いを認め合いながら学んできている。第3学年で経験した校内音楽会では、歌唱教材『いのちのオーケストラ』に取り組み、音符と休符の長さや、声を揃えて「合わせて歌う」ことのよさに気づき、曲の雰囲気を楽しみながら歌うことができた。

鑑賞の学習では、第3学年から「音楽のもと」の掲示物を活用して指導を積み重ねたことで、曲を聴いて「楽しい感じ」「優しい感じ」といった発言だけでなく、音色、速度、強弱など、「音楽を形づくっている要素」の言葉を使って発言する児童も見られるようになってきた。しかし、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えが及ばない児童が多いことが指導上の課題であると感じている。また、強弱の変化を「音が高く（低く）なった」と表現するなど、「音楽を形づくっている要素」の理解が十分でない様子も見られる。「音色が〇〇だから△△のように感じたのだな」などの考えをもち、友達と一緒に学びを広げ、深める学習活動を通して音楽のよさを味わい、得た学びを生活にも生かそうとする児童を育てたい。

##### ②題材の意義

本題材では、曲想と旋律などの音楽の構造と歌詞の内容とを関わらせて歌唱表現をしたり、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲想を生み出している音楽の構造に気付いて音楽を聴いたりする活動を通して、得た知識を自分なりの表現につなぐことができる指導計画とした。

歌唱教材『赤いやねの家』は、本校の取組である「今月の歌」として給食の時間に聴いたり音楽の授業で歌ったりする経験をしている。本題材で初めて楽譜を見て、歌詞から読み取った情景や「ぼく」の心情と、曲想やその変化と旋律などの音楽の構造との関わりに気づき、思いや意図をもって歌う。

鑑賞教材『山の魔王の宮殿にて』は、曲想が変化することで聴き手に迫力や緊張感が伝わる曲である。曲を聴いて想像した場面の様子と「音楽を形づくっている要素」である音色、速度、旋律、強弱との関わりを考え、友達と対話をしながら曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くことができるようにする。

## (2) 学習指導要領との関連

【A表現：歌唱】(1) ア・イ・ウ (イ)

【B鑑賞】ア・イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 音色、速度、旋律、強弱

イ 反復、変化

### 3 教材について

#### ●『赤いやねの家』 織田ゆり子作詞 上柴はじめ作曲

出典：「小学生の音楽4」 教育芸術社

歌詞が端的で理解しやすく、情景や「ぼく」の心情を読み取ったり、共感したりしながら歌うことができる。旋律の音の上がり下がり、ところどころに現れる音の跳躍、強弱記号などが、歌詞に込められた「せつなさ」と一体となり、曲想を感じ取って歌う学習に適している。

#### ●「ペールギュント」第1組曲から『山の魔王の宮殿にて』 エドヴァルド・グリーグ作曲

出典：「小学生の音楽4」令和6年度～鑑賞用CDより ネーメ・ヤルヴィ指揮エーテボリ交響楽団  
DTC-3535/6

ノルウェーの作曲家エドヴァルド・グリーグ(1843～1907)の作品。ヘンリック・イプセンの戯曲「ペールギュント」の付随音楽として作曲されたため、物語と結び付けて情景を想像しながら曲想の変化を感じ取って聴くことができる。『山の魔王の宮殿にて』は物語の主人公ペールが山の魔王の宮殿に立ち寄った場面の音楽である。低音の弦楽器で演奏される主な旋律が様々な楽器で繰り返し演奏され、徐々に楽器が増えて音の響きや厚みが増していく。音色や速度、強弱の変化を聴き取りやすく、曲想の変化と、音楽の構造との関わりに気付き、音楽のよさを味わって聴く学習に適している。

### 4 研究主題に迫るための手立て

#### 視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

##### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

- ・児童と共に「作曲者の思いを生かして歌おう」「作曲者の工夫を探ろう」などと学習課題を設定することで、児童が学びの目的や目標を捉えることができるようにする。
- ・年間を通して、つかむ(課題把握・設定)→見通す(学習方法の選択・理解)→探究する→つなぐ・生かす、という学習サイクルでの学びを積み重ね、本題材でも実践する。

##### ○個別最適な学びを実現する工夫

- ・自分が聴き深めたい「音楽を形づくっている要素」、聴き深め方のヒントとなる「聴き方カード」を選択できるようにする。
- ・児童が詳しく聴きたいと感じた箇所を自ら選んだり、繰り返し聴いたりできるように、グループの一人一台端末に音源を配布し、グループの児童が同時に聴くことができるよう、イヤホンスプリッターを活用する。

#### 視点2 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

##### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

- ・同じ「音楽を形づくっている要素」を選択した友達とグループを編成することで、活発な対話を促す。

- ・曲の流れを視覚的に捉えながら音楽を聴き、共通の尺度をもって対話することができるよう、タイムバーを活用した学習活動を行う。

### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

- ・学習のねらいに沿った児童への発問や意図的な言葉掛けを工夫する。
- ・選択した「音楽を形づくっている要素」について聴き方に行き詰ってしまったグループに「聴き方カード」を提示し、カードの内容に沿って聴き深めることができるようにする。

### 視点3 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

- ・第1学年から第6学年までの鑑賞教材について「音楽を形づくっている要素」別に系統表を作成し、学びの連続性や発展性を意図した指導計画を立てる。
- ・地域人材によるバイオリンの出前授業を実施し、楽器の音色に親しみ、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて演奏者の思いや意図に気付く機会をつくる。
- ・集会や保護者会で歌唱を発表するなど、学びを生かし表現する場を設定する。

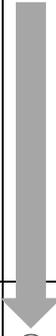
## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>知</b> 曲想と旋律や強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。(歌) ② <b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。(歌) ③ <b>知</b> 曲想及びその変化と音色、速度、旋律、強弱の音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑)	① 旋律、強弱の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌) ② 音色、速度、旋律、強弱、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)	① 曲想を感じ取ることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習に取り組もうとしている。(歌・鑑)

## 6 題材の指導計画と評価計画

### 5 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T 「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<第一次のねらい>曲想と音楽の構造や歌詞から読み取った情景や心情との関わりに気付き、思いや意図に合った表現で『赤いやねの家』を歌う。					
1	○『赤いやねの家』を、旋律の音の上がり下がりや拍子、強弱と曲想との関わりに気を付けながら歌う。 ・音程や、旋律の音の上がり下がり捉えて歌う。	◇音程や旋律の上がり下がり捉えやすいように、速度や旋律の弾き方を工夫してピアノ伴奏をする。 ◇楽譜を見ながら、1オクターブの跳躍や高いド・レの音を無理のない発声で			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱の変化を捉えて歌う。</li> <li>・3拍子や旋律の特徴を感じ取りながら、全曲を通して歌う。</li> <li>・歌詞から情景や「ぼく」の気持ちを読み取る。</li> </ul> <p>○歌詞の中で自分が一番伝えたい部分を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の中で自分が一番伝えたい部分をワークシートに書き、発表する。</li> </ul>	<p>歌えるよう、部分的に練習するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇既習の強弱記号を確認し、クレッシェンド、デクレッシェンドを説明する。</li> <li>◇各フレーズ、弱起の歌い出しと息継ぎに気を付けて歌うようにする。</li> <li>◇教師や友達と対話をしながら1行ずつ読み進めるようにする。</li> <li>◇読み取ったことを教師が拡大した歌詞に書き込む。</li> <li>◇曲想と旋律の音の上がり下がりや強弱記号などと歌詞とを関わらせて考えるよう言葉を掛ける。</li> <li>◇なぜそこを一番伝えたいのか理由を価値付け、次時につなげるようにする。</li> </ul>	① 知 発言 内容 ・ 演奏 聴取	
2	<p>○歌詞から読み取った情景や心情を生かす歌い方を試しながら、自分たちの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシートを基に、各自が考えたことや感じ取ったことを生かしながら全曲を通して歌う。</li> <li>・歌詞の中で一番伝えたい部分をどのように歌ったらよいか、4～5人のグループで工夫を考える。</li> </ul> <p>○思いや意図に合った表現で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでどのように歌うかについて思いや意図をもって歌う。</li> <li>・表現の工夫について考えたことを生かし、自然で無理のない歌い方で歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇考えたことや感じ取ったことを歌いながら表現している児童を価値付ける。</li> <li>◇グループで歌い試しながら考え、グループのワークシートに工夫を書くようにする。</li> <li>◇他のグループの歌唱を聴いて、どんな工夫があったか伝え合い、互いの表現のよさを認め合うようにする。</li> <li>◇大きな円になり、互いの表情が見えるように内側を向いて歌うようにする。</li> </ul>	① 記述 内容 ・ 演奏 聴取  ② 技 演奏 聴取	
<p>&lt;第二次のねらい&gt; 『山の魔王の宮殿にて』の作曲者の工夫を考え、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気づき、曲のよさや面白さを味わって聴く。</p>				
3	<p>○『山の魔王の宮殿にて』を聴き、曲想及びその変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『山の魔王の宮殿にて』の曲名や作曲家、劇の場面の音楽であることを知る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全曲を通して聴き、場面の様子を想像して伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇イプセンが書いた話を劇として上演することになり、劇を盛り上げるためにグリーグに作曲を依頼したこと、主人公ペールが旅の途中で立ち寄った山の魔王が住む宮殿の場面の音楽であることを伝える。</li> <li>◇曲の進み方が視覚的に分かるタイムバーを電子黒板に提示し、曲全体の見通</li> </ul>		

	<p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「見つからないように隠れている」</li> <li>・「ペールが逃げている」</li> <li>・「宮殿の中をさまよっている」</li> <li>・「魔王と戦っている」</li> <li>・「最後は戦いに勝つ」</li> </ul> <p>・曲を聴いただけでなぜそのような想像ができたのか理由を考え、場面の様子 と音色、速度、旋律、強弱との関わり に気付く。</p> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「低い音が続いていたから」(音色)</li> <li>・「だんだん速くなっていたから」(速度)</li> <li>・「何度も繰り返していたから」(旋律)</li> <li>・「最後は音が強かったから」(強弱)</li> <li>・「だんだん強くなっていたから」(強弱)</li> </ul> <p>・音色、速度、旋律、強弱の中から自分 が探してみたい「音楽を形づくっている 要素」を選択し、グループになる。</p> <p>・選択した「音楽を形づくっている要素」 に着目して全曲を通して聴き、グリー グの工夫の一つを見付ける。</p> <p>・次時の課題を把握する。</p>	<p>しをもつことができるようにする。</p> <p>〈視点2〉</p> <p>◇タイムバーを記載した模造紙に教師が 児童の発言を書き、共有できるように する。</p> <p>◇児童の発言を基に教師が指名し、理由 を問うようにする。</p> <p>◇理由を、「音楽を形づくっている要素」 と結び付けながら価値付け、音色、速 度、旋律、強弱に絞って提示する。</p> <p>T「曲を聴いただけで場面の様子を想像 することができたのは、グリーグが音 楽に工夫をしているからなのですね。 4つの音楽の要素を手掛かりに探っ てみましょう」</p> <p>◇対話が活発になるよう、教師が同じ「音 楽を形づくっている要素」を選んだ児 童で4～5人のグループを編成する。</p> <p>〈視点2〉</p> <p>◇見付けたグリーグの工夫を短冊に書 き、各グループに配布した模造紙に貼 るように伝える。</p> <p>◇グリーグの工夫を更に探っていく意欲 がもてるように言葉を掛ける。</p> <p>〈視点1〉</p> <p>T「グリーグが○○を△△と工夫してい ることを見付けられましたね。他にも 工夫しているところがありそうです。 次回もっと探ってみましょう」</p>			
4 本 時	<p>○自分で選択した「音楽を形づくってい る要素」に着目して聴き、曲想及びそ の変化と音色、速度、旋律、強弱との 関わりに気付く。</p> <p>・前時を振り返り、クラス全員で曲全体 を通して聴く。</p> <p>・グループで確かめたい部分を選択して 聴いたり、対話したりしながらグリー グの工夫を見付け、短冊に書く。</p> <p>・短冊を自分たちのグループの模造紙に 貼る。</p>	<p>◇各グループの記述内容を振り返り、ス ピーカーから一斉に聴くようにする。</p> <p>◇一人一台端末とイヤホンスプリッター を活用し、グループで音源を聴きなが ら見付けることができるようにする。</p> <p>〈視点1〉</p> <p>◇曲のどの部分にどんな工夫があるのか 共有できるようにする。</p> <p>◇聴き方に行き詰まったグループは、聴 き方のヒントとなる「聴き方カード」 を選択し、カードの内容に沿って聴き</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで見つけたグリーグの工夫を発表し合い、クラスで共有する。</li> <li>完成した模造紙を見て、「音楽を形づくっている要素」が関わり合いながら曲想が変化していることに気付く。</li> <li>全員で全体を通して聴き、自分が一番好きな部分とその理由を発表する。</li> </ul>	<p>深めることができるようにする。</p> <p>〈視点1・2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇クラスで共有できるよう、グループの模造紙を一つのタイムバー上に並べて掲示する。</li> </ul> <p>〈視点2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇各グループの記述内容と場面の様子とを関わらせ、価値付ける。</li> <li>◇グリーグが音色、速度、旋律、強弱などを工夫したことで曲想が変化し、音楽の豊かな表現によって劇がより面白くなることを共有する。</li> <li>◇スピーカーから一斉に聴くようにする。</li> </ul>	<p>③ 知</p> <p>発言内容・記述内容</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『山の魔王の宮殿にて』の曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。</li> <li>・前時を振り返り、それぞれの「音楽を形づくっている要素」が関わり合いながら曲想が変化していることを確かめる。</li> <li>・『山の魔王の宮殿にて』を全曲通して聴き、自分が一番好きな部分とその理由をワークシートに書く。</li> <li>・『山の魔王の宮殿にて』の場面の話を知り、曲のよさや面白さを味わいながら全曲を通して聴く。</li> <li>○『赤いやねの家』の情景や心情と曲想とを関わらせ、思いや意図をもって歌う。</li> <li>・『赤いやねの家』を思いや意図をもって歌う。</li> <li>・学習を振り返り、分かったことやできるようになったこと、これからの音楽の学習や生活に生かしたいことを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時の模造紙を提示する。</li> <li>◇物語と音楽、そして曲想の変化が生み出すよさや面白さを味わいながら全員で聴くようにする。</li> <li>◇自分たちがこの音楽を聴いて感じ取ったことや想像した様子とイブセンが書いた話とを関わらせながら、読み聞かせを聞くように伝える。</li> <li>◇鑑賞の学習を通して学んだことを表現に生かして歌うようにする。</li> <li>T「音楽の要素が関わり合いながら曲想が変化することで、場面の様子や心情がより豊かに表現されるというのは、『山の魔王の宮殿にて』も『赤いやねの家』も同じですね。曲の雰囲気は違いますが、最後に『赤いやねの家』を作曲者の思いを生かして自分の表現の仕方でも歌いましょう」</li> </ul> <p>〈視点1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇情景や心情をより豊かに伝えることができる音楽のよさや面白さ、それを生かして音楽を楽しんでいくことを共有して、次の題材につなぐようにする。</li> </ul>	<p>② 発言内容・記述内容</p>	<p>① 発言内容・行動観察</p>

## 7 本時の展開

## 4 時間目

### (1) 本時のねらい

音色、速度、旋律、強弱に着目して『山の魔王の宮殿にて』を聴き、作曲者の音楽の工夫を見付け、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに気付く。

### (2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
<p>○自分で選択した「音楽を形づくっている要素」に着目して聴き、曲想及びその変化と音色、速度、旋律、強弱との関わりに気付く。</p>	
<p><b>グリーグが音楽にどんな工夫をしたのか探ろう</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、クラス全員で曲全体を通して聴く。</li> <li>・グループで確かめたい部分を選択して聴いたり、対話したりしながらグリーグの工夫を見付け、短冊に書く。</li> <li>・短冊を自分たちのグループの模造紙に貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自ら選択した「音楽を形づくっている要素」別に編成したグループで着席するようにする。</li> <li>◇スピーカーから一斉に聴き、各グループの記述内容を全員で振り返るようにする。</li> <li>T「前回、音色、速度、旋律、強弱の4つの要素を手掛かりに、グリーグの工夫を見付けることができました。今日は、グループの友達と一緒に音楽を聴きながらグリーグの工夫をもっと探ってみましょう」</li> <li>◇一人一台端末とイヤホンスピーカーを活用し、グループで音源を聴きながら見付けることができるようにする。 <b>〈視点1〉</b></li> <li>◇曲のどの部分にどんな工夫があるのか共有できるようにする。</li> </ul>
<p>【予想される児童の記述内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音色 バイオリンの音 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボン、ボン</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高い音</span></li> <li>・速度 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おそい</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はやい</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">だんだんはやくなる</span></li> <li>・旋律 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同じことをくり返している</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">最後はなくなる</span></li> <li>・強弱 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">弱い</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">強い</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">だんだん強くなる</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇聴き方に行き詰まったグループは聴き方のヒントとなる「聴き方カード」を選択し、カードの内容に沿って聴き深めることができるようにする。 <b>〈視点1・2〉</b></li> <li>◇聴き方カードの例</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで見つけたグリーグの工夫を発表し合い、クラスで共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色… <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">音色が一番変化しているところはどこ？</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高い音？低い音？</span></li> <li>速度… <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">速度が一番変化しているところはどこ？</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">速度レベルを数字で表そう 1 2 3 4 5</span></li> <li>旋律… <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主な旋律が何回出てきた？</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">旋律が明るい感じになる場所はどこ？</span></li> <li>強弱… <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">強弱が一番変化しているところはどこ？</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">強弱記号で表すと？ p・mp・mf・f</span></li> <li>◇クラスで共有できるよう、グループの模造紙を一つのタイムバー上に並べて掲示する。 <b>〈視点2〉</b></li> </ul>

- ・完成した模造紙を見て、「音楽を形づくっている要素」が関わり合いながら曲想が変化していることに気付く。

【予想される児童の気付き】

- ・「終わりのところは演奏する楽器を増やして、強弱も一番強くしている」
- ・「始めのところは速度が遅く、弱くすることで、より怖い雰囲気を出している」
- ・「同じ旋律を繰り返しているけど、音色を変えていることが分かった」
- ・「同じ旋律を繰り返していたのに、最後だけ変えることで迫力を出している」

- ・全員で全体を通して聴き、自分が一番好きな部分とその理由を発表する。
- ・次時の学習内容を知る。

◇各グループの記述内容と場面の様子とを関わらせ、価値付ける。

T「グリーグは音色を〇〇と工夫することで、場面の△△な様子を表現したのですね  
「グリーグが速度を〇〇と工夫したから、私たちは△△のように想像を膨らませて聴くことができたのですね」

◇グリーグが音色、速度、旋律、強弱などを工夫したことで曲想が変化し、音楽の豊かな表現によって劇がより面白くなることを共有する。

T「こうして見ると、音色、速度、旋律、強弱それぞれに変化や工夫があって、さらにそれらに関わり合わせることで、曲の雰囲気が変わって、劇を盛り上げるのですね。これがグリーグの工夫だったのですね」

◇スピーカーから一斉に聴くようにする。

T「初めてこの曲を聴いたときと今とでは音楽の聴き方や感じ取り方が変わった人もいるようですね。次回は『山の魔王の宮殿にて』の一番好きな部分をお互いに伝え合いたいですね」

◆曲想及びその変化と音色、速度、旋律、強弱の音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑)知③ 〈発言内容・記述内容〉

〈 Aと判断される児童の状況 〉

- ・曲想及びその変化と、複数の「音楽を形づくっている要素」との関わりを曲全体で捉え、作曲者の工夫について自らの言葉で表している。

〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉

- ・「聴き方カード」の中から取り組みやすいカードを提示し、カードの内容に沿って聴き深めることができるようにする。

助言者の言葉

音楽を形づくっている要素を自ら選び、対話を通して曲想の変化を探っていく授業構想が秀逸です。聴き方カードやタイムバーの活用により、聴く過程が可視化され、子ども同士で思考が共有できるようにしています。音楽を「聴く」だけでなく「考え、語り、意味づける」経験を通して、音楽を探究的に味わう力が育つことが期待できます。子どもが主体となって音楽の意味を見だし、学びを自らつくっていく姿を支えるという意義のある実践です。

横浜市立太尾小学校校長 館 雅之

## 心おどる、心ふるえる歌唱の授業

講師 桐蔭学園小学校 主幹教諭 岩井 智宏先生

### ワークショップの意義

企画 新宿区立花園小 根本 潤子  
台東区立東浅草小 西澤 謙

今年度山の手Bゾーンでは『生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成』をテーマに掲げ、目指す児童像を以下の3つに絞って研究を進めてきた。

- ・音楽活動の楽しさを見いだしながら、自ら学びに向かう子
- ・他者や音楽との対話を通して、自分の考え方や感じ方を広げたり深めたりする子
- ・音楽の学びをこれからの学びや生活につなげて生かそうとする子

目の前の子供たち、『音楽』は好きだけれど『音楽の授業』はどうなのだろうか。私たちが直面する～子供と音楽～を結び付ける音楽専科の役割とは。音楽の授業の中の、そして音楽の授業を経験した先に子供は『幸せに生きる力』を身に付けられているのだろうか。

テーマに迫るべく研究を進めるにつれ、様々な迷いやもやもやとした思いが生まれてきた。これは同じ迷いをもつ先生方がきつといるに違いない。このような思いから、子供の『うれしい』『楽しい』『もっともっと』『なるほど』・・・を引き出してくださる岩井智宏先生のワークショップを企画した。お茶の水小学校の4年生を対象に歌唱の授業を見させていただき、岩井先生の思いと実践から多くを学びたい。明日の子供たちと私たちの『幸せに生きる力』につなげていくことができるようにと願って企画したワークショップの時間を皆様で共有していただけたら幸いである。

### ○本時の主な学習活動の流れ（13：30～14：00）

今回の学習は、題材を「思いを音楽で表そう」として、今まで学んできたことを生かしながら曲がもっている気分やその変化を感じ取って、歌ったり演奏したり音楽を聴いたりすることを題材の目標とします。本時では、歌唱分野で『赤いやねの家』を教材に学習を進めていきたいと考えています。当日の子どもたちの様子をしっかりと見つめながら授業を進めていきたいと考えておりますが、この教材では、以下を学習のポイントと考えています。

- ① まずは、感覚的でも純粹に歌えるようになりたい。
- ② 歌詞も覚えよう。
- ③ 表現を深める準備として楽譜も分かっていたい。

★共通事項 旋律 強弱 拍

★楽譜の中でポイントとする視点

- ・ 3拍子、付点8分音符と16分音符（タッカのリズム）
  - ・ ハ長調、伸ばす音符（2分音符、付点2分音符）、
  - ・ タイ（○+○）、休符（4分休符）、フレーズ、構成（a b a'）
  - ・ 強弱記号（mp、mf、クレッシェンド、デクレッシェンド）
  - ・ 旋律の特徴（高いドとレに着目）
- ④ 音楽的な事実をもとに歌詞の意味と照らし合わせながら創造性をいかして歌唱表現を深めていく。
  - ⑤ 子どもたちが実感を伴う表現の変化を目指す。

## ○ワークショップの内容（14：05～14：30）

毎日学校で授業をしていると、どのような授業展開が子どもたちの学びを深めていけるか、日々悩んでいるように感じます。また音楽の授業で学びを焦点化することが大変重要であることが分かっているにもかかわらず、多様につくられている音楽を取り扱うからこそ学びが広がりすぎて、逆に学びの中心を見失ってしまう側面もあるように感じています。

今回のワークショップでは、歌唱分野を軸に教材を本時と同じ『赤いやねの家』を使用して、児童に行った流れを先生方自身にもワークを通して体感して頂きたいと考えています。また、本時の展開がより深まりやすくなる常時活動などもご紹介できたらと考えています。

是非一緒に歌って、一緒に動いて、音楽の深まりを考えていきましょう！

先生方のご参加をお待ちしております。

Memo

# 研究の成果と今後の課題

山の手Bゾーン大会推進委員長 宮澤裕之

## 1 研究の成果

本研究では、3つの視点を設定し研究を進めてきた。児童の心が音楽に向かい、主体的に音楽活動をする喜びを体全体で表現する姿を目指して研究を積み重ね、以下の成果を収めることができた。さらにゾーン研究の成果として、研究交流会において、ワールドカフェ方式での率直な意見交流も授業改善への意欲向上や協働研究の意義を実感する研究となったことも大きな成果である。

### **視点1** 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学びの実現

#### ○見通しをもって学び続けることのできる学習過程の工夫

「鑑賞から表現」「表現から鑑賞」を関連付ける題材構成の中で、教材と主体的に関わるような出会いの工夫をすることで、児童の音楽への興味・関心を高め、親しみをもって深く音楽と関わることができた。また、題材の学習を集積するワークシートを活用することで、課題を明確にし、見通しをもって学習活動を進める手掛かりとなった。さらにめあてと振り返りを関連付けて全体で共有することで、学んだことを次の学習に生かし、児童が自ら学びを発展させることができた。

#### ○個別最適な学びを実現する工夫

児童が自ら課題を選択し、納得感をもって学びに向かうことで、他者の考え方にも意識が向くようになり、音楽的な見方・考え方に深まりが見られるようになった。ICTの活用では、デジタルワークシートを用いることで、試行錯誤を重ねながら旋律づくりに取り組み、視覚的に旋律やフレーズなどを捉えて音楽の構造について考えることができた。また、一人一台端末をグループに一台用意し活用することで、繰り返し曲を聴き、音楽を形づくっている要素がどのように働いているかを主体的に確かめようとする姿が見られた。

### **視点2** 対話を通して広げ深める協働的な学びの実現

#### ○考え方・感じ方を広げ深める対話を実現する学習活動

少人数で同じ課題に取り組む学習過程では、友達と共に探究することで、何をどのように深めていく

のかという目標が明確になり、対話が活性化した。また、児童一人一人の思いを思考ツール、色別シート、拡大楽譜等で可視化することで、これまでの学びを視覚的に振り返り、表現の変容を実感し互いの思いや考えを交流しながら協働的な学びを実現できた。

#### ○音楽表現や考えを広げ深める教師の働きかけ

予想される児童の状況に対して、適切な働きかけや児童が理解しやすい言葉掛けを準備することで、授業中の教師の見取りや支援の手立てとなり、児童が学習のねらいに向かうことにつながった。さらに、児童一人一人の反応や思考の流れを丁寧に捉えた発問や価値付け、ICTや可視化資料の活用など、多様な支援を通して、児童が自ら音楽表現の工夫を広げ深める支えとなった。

### **視点3** 学んだことを生かしつなげる深い学びの実現

地域の人材を活用したり他教科との連携を図ったりすることで、題材の学習内容への興味・関心を深め、生活や社会の中の音や、音楽に関わろうとする態度の育成につながった。また、題材の目標を他教科や学校行事等と関連付けることで、教科横断的に効率よく効果的に学びを深めることができた。さらに、地域や行事とのつながりの中で、学んだことを自分の生活や将来の姿へと結び付けて考える姿が見られ、学びをつなげる力の育成にもつながった。

## 2 今後の課題

児童の思いや意図を引き出し、表現につなげるために、教師の適切な価値付けや、児童が技能を習得し活用できるように系統的な学び合いを積み重ねていく指導の充実を図っていきたい。また、個別最適な学びを実現するために、一人一人の児童の実態に合わせた学び方や進め方、特に対話の方法や教師の言葉掛けについて、引き続き研鑽を重ねる必要がある。さらに、音楽科の学習を教科等横断的に関連付けることで、各学校の特色を生かし、児童が生活や社会の中で音楽を生かしていく力を育て、ウェルビーイングの実現へとつなげていきたい。